

## 臓器移植・提供に対する態度と行動：一般社会人と腎臓バンク登録者の比較

その他のタイトル	Attitudes and Behaviors toward Organ Transplantation and Donation
著者	高木 修, 松本 敦, 箱井 英寿
雑誌名	関西大学社会学部紀要
巻	15
号	2
ページ	59-135
発行年	1984-03-28
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00022758">http://hdl.handle.net/10112/00022758</a>

# 臓器移植・提供に対する態度と行動

—— 一般社会人と腎臓バンク登録者の比較 ——

高 木 修  
松 本 敦  
箱 井 英 寿

## I. 問 題

## II. 調査の概要

- 1 調査の意義と目的
- 2 調査項目
- 3 調査の設計
- 4 調査の集計

## III. 調査結果の概要

- 1 調査対象者の基本的属性など
- 2 臓器移植・提供一般についての認知と態度
- 3 内臓、骨、角膜、皮膚、血液などの提供意向など
- 4 腎臓バンクについての認知と態度
- 5 腎臓バンクへの登録
- 6 腎臓バンクへの登録の推奨
- 7 臓器移植・提供に関する個人的背景と提供についての他者からの、また他者への働きかけ
- 8 腎臓以外の臓器の移植・提供について
- 9 社会奉仕一般について
- 10 腎臓バンクの制度についての意見

## IV. 結 語

## V. 付 表

## I. 問 題

日本における人体解剖は、ヨーロッパから大きく遅れ、明治に入ってからやっと医学教育のステージにのぼった。以後今日に至るまで医学はめざましい進歩を遂げてきた。この進歩は、外科手術の、換言すれば、切除術の発達に負うところが大きい。この方法を補うために戦後急速に発達してきたのが臓器移植と人工臓器の医学である。この新しい医学は、切除術に対して、再建外

科と呼ばれ、輸血術を含めて“置換医療”と総称されている。

この置換医療は、人体のあらゆる部分の交換をめざして着々と進歩してきた。たとえば、細胞（骨髄、脾細胞、肝細胞）、組織（角膜、皮膚、骨、歯胚）、そして臓器（腎臓、喉頭、心臓、脾臓、肝臓）の置換が研究され、医療に取り入れられてきた。

一般に移植には、生体から臓器を摘出して移植する生体臓器移植と、死体から臓器を摘出して移植する死体臓器移植とがある。臓器の種類によりその移植の件数はまちまちであるが、腎臓移植が圧倒的に多い。これは、腎臓移植の手術が安全かつ簡単であること、死体腎臓移植の場合でも遺体にほとんど傷をつけず、死の尊厳を傷つけるものではないこと、腎臓移植の場合は、蘇生術を積極的にすればするほど腎臓にも好影響をもたらすので、取り出すことよりも蘇生に打ち込めること、また、移植後に拒絶反応などの不適応症状が出て、移植した腎臓を取り出して、もとの人工臓器にかえることができること、などの理由からである。

日本においても腎臓移植の回数や腎臓提供者の人数は年々増加している。しかしその70%以上は、血縁関係者による生体腎臓移植であり、死体腎臓移植は10%余りと非常に少ない。欧米の死体腎臓移植の割合は、日本とは対照的に、非常に大きく、たとえば、西ドイツやスイスではそれが100%となっている。この割合の比較的小さいアメリカにおいてさえ、それは65%である。

このように日本では腎臓提供者が少なく、そのために多くの移植用臓器を欧米諸国などに頼っている。日本のこの要請に諸外国は応じてくれているが、将来とも協力が得られる保証はない。

置換医療の進歩に伴って起こってきたこの臓器提供の問題に1つの希望の光が見えてきた。それは、積極的に遺体の臓器を活用しようというシステムの設置である。これは、欧米先進諸国で発展したものであり、“死を生かす医療”，すなわち、死者の臓器を移植に使う医療システムである。すでに日本でもこのシステムは機能しだしている。つまりそれは、臓器機能の障害者に対して死後臓器を提供しようという人々にあらかじめ登録しておいてもらい、移植の際には迅速に連絡を取り合って移植を促進する機関（バンクと呼ばれる）を設置し、合わせて情報センターと情報網を配備するものである。

臓器、組織、細胞の移植を促進するために種々のバンクが設立されている。たとえば、アイ（角膜）バンク、ボーンバンク、脳下垂体バンク、腎臓バンク、そしてスキンバンク（日本には未だ設置されていない）などがある。そのなかの腎臓バンクは昭和55年6月6日に発足した。大阪腎臓バンクは、大阪府・奈良県・和歌山県をその登録対象地区としている。その他、東京都では腎臓移植普及会が、北海道では北海道大学が中心に腎移植をすすめる会が、兵庫県では県立西宮病院県腎臓移植推進協会が、そして京都府では府立医大付属病院がそれにあたっている。これらの機関に登録している人は、全国で約5万5千人（昭和59年1月末日現在）にのぼっている。大阪腎臓バンクは、昭和59年2月末日現在で約1万1千人の登録者をかかえ、全国都道府県別で第1位になっている。腎臓提供登録者総数はこのようにかんがりの数に達しているが、それでも約4万人もいる腎不全患者を救済するにはほど遠い。それどころか、大阪府下の透析患者は昭和57

年12月末日現在約3千5百人いるが、その中で死体腎臓移植待機者として登録している者（全体の41.1%）すら救えないのが現状である。

置換医療が発達し、多くの病める人々の生命を救済することができるようになった。そのために、病める臓器のかわりとなる健康な臓器を誰が提供するのかということが深刻な問題となってきた。そして、その供給源が我々の生体あるいは遺体以外にないことは確かである。

## II. 調査の概要

### 1 調査の意義と目的

病める臓器を健康な臓器ととりかえることにより多くの人々が救われる。ところが、日本においては、腎臓バンクなどへの登録者は欧米諸国と比べて非常に少ない。なぜ我が国においては、自分の臓器を困っている人に提供しようとする人が少ないのであろうか。臓器の移植や提供について、人々はどの程度の知識を持ち、この問題にどのような意見を持っているのだろうか。どの程度の人々がどの程度自分の臓器を提供しようという意図を持っているのだろうか。これらの疑問に対して何らかの回答を得ることは、緊急の課題である。医学部が中心となり患者を対象に行なわれた小規模な調査はいくらかあるが、一般の人々を対象にした大規模な、特に社会心理学的アプローチを採った調査は皆無に等しい。

病める人々が健康な生活を送れるようになることは、今や社会的要請である。わけても、今日の社会的課題である社会福祉が、強力な社会連帯の意識を必須のものとするのを考えるとき、この問題を無回答のまま放置することは許されない。この調査は、臓器の移植・提供という問題に対する心理学的接近の第一歩である。人々がこの社会的問題についてどの程度の知識を持ち、どのような態度を保有し、どの程度の行動意図を秘めているかを社会調査を通じて把握することが、この研究の目的である。特にこの調査では、腎臓バンク登録者と、医者、看護婦、医学部生、および看護学校生といった、この問題と特殊な関係にある対象者をも調査し、それらの比較を通じて一般の社会人や大学生の知識・態度・動機の実態をより一層明確にするよう計画されている。この論文では、腎臓バンク登録者と一般社会人に関する調査結果のみを報告する。

我々は長年、何の見返りも期待することなく、自由意志で他者に恩恵を施す行動、すなわち、順社会的行動（prosocial behavior）を研究してきた。すなわち、緊急事態において、あるいは非緊急事態において、自己を犠牲にしても他者を援助しようとする愛他的行動の、また、自分の貴重な持ち物を困っている人に分け与える寄付・分与行動の心理学的メカニズムを解明しようとしてきた。特に近年、歳末助け合い運動、献血行動の調査を終わり、もう1つの型の寄付・分与行動として、臓器提供行動の研究に着手したのである。この研究は、その意味で、順社会的行動の研究の一環として位置づけられる。

## 2 調査項目

- ① 調査対象者の基本的属性など
- ② 臓器移植・提供一般についての認知と態度
- ③ 内臓、骨、角膜、皮膚、血液などの提供意向など
- ④ 腎臓バンクについての認知と態度
- ⑤ 腎臓バンクへの登録
- ⑥ 腎臓バンクへの登録の推奨
- ⑦ 臓器移植・提供に関する個人的背景と提供についての他者からの、また他者への働きかけ
- ⑧ 腎臓以外の臓器の移植・提供について
- ⑨ 社会奉仕一般について
- ⑩ 腎臓バンクの制度についての意見

## 3 調査の設計

### (1) 調査地域

- ① 大阪腎臓バンク  
一般社会人と対比させる特殊な調査地域として、大阪腎臓バンクが登録対象地区としてい  
る大阪府・奈良県・和歌山県の中から、大阪府のみを選定した。
- ② 一般社会人居住都市  
一般社会人の意識や行動を調査する対象地域として、大阪府吹田市を選定した。この吹田  
市は大阪府に南接し、都心より15km圏内において大阪市の郊外地域として発展してきた。吹  
田市域は商工業地区、新興住宅地区、農村地区のいずれをも包含し、しかも新しい町と古い  
町が併存している。産業の形態も特定の種別に片寄っていない。したがって吹田市は、日本  
における一般的な近郊都市の中に住む社会人の態度や行動を比較研究し、一般化を試みるの  
に適した地域である。

### (2) 調査対象者

- ① 大阪府に居住し、大阪腎臓バンクに登録している人
- ② 吹田市に居住する一般社会人で、大阪腎臓バンクに登録していない人

### (3) 標本抽出方法

- ① 大阪腎臓バンク登録者（“登録者”）  
調査対象者として、大阪腎臓バンクに登録している19歳以上54歳以下の登録者をランダム  
に抽出した。その際、一般社会人（吹田市民）の対象者と重複した者、同一家族内に登録者  
のいる者は除外した。
- ② 一般社会人（“未登録者”）  
調査の対象者は、第一段階で吹田市域のなかから旧市街地である片山町1，2，3，4丁

目、天道町、藤が丘町を、集合住宅地である藤白台 1, 2, 3, 4, 5 丁目, 古江台 1, 2, 3, 4, 5, 6 丁目を有意抽出し、第 2 段階でそれぞれの対象選定地区からサンプルを無作為抽出した。サンプル台帳として、選挙人名簿を用い、20歳以上54歳以下の者を基準にサンプルを確定した。

(4) 標本規模

① 大阪腎臓バンク登録者（“登録者”）

大阪腎臓バンク登録者総数は、6,420（昭和57年11月現在）であった。上記の基準に基づき信頼度95%における標本測定値50%の場合の信頼区間の2分の1幅を5%以内に抑える標本数を得ることとし、回収率を予測・考察して、970人を抽出した。

② 一般社会人（“未登録者”）

上記の対象市域の世帯総数は、片山町・天道町・藤が丘町 7,718, 藤白台・古江台 10,940 であった。これを母集団のリストとしてサンプルの抽出を行なった。信頼度95%における標本測定値50%の場合の信頼区間の2分の1幅を5%以内に抑える標本数を得ることとし、回収率を予測・考察して、片山町・天道町・藤が丘町 535, 藤白台・古江台 517 の標本を抽出した。

(5) 調査方法

① 大阪腎臓バンク登録者（“登録者”）

郵送法で調査を実施した。

② 一般社会人（“未登録者”）

関西大学社会学部の学生を調査員とした配票留置法で調査を実施した。

(6) 調査時期

① 大阪腎臓バンク登録者（“登録者”）

昭和57年12月2日に調査票を発送し、12月12日を返信の締め切り日とした。なお、調査協力へのお礼を兼ねた督促状を12月16日に発送した。

② 一般社会人（“未登録者”）

昭和57年12月9日から12月24日までの15日間にわたって調査を実施した。

#### 4 調査の集計

##### ① 大阪腎臓バンク登録者（“登録者”）

地区 回収状況		大阪府		
		サンプル数	970人	(100.0%)
有効回収数		753人	(77.6%)	
調査 不能 理由	拒否	179人	(22.4%)	
	住所不明	38人		

##### ② 一般社会人（“未登録者”）

地区 回収状況		藤白台1～5丁目 古江台1～6丁目		片山町 1～4丁目 天道町 藤が丘町		
		サンプル数	517人	(100.0%)	535人	(100.0%)
有効回収数		391人	(75.6%)	392人	(73.3%)	
調査 不能 理由	転居	18人	126人 (24.4%)	14人	143人 (26.7%)	
	長期不在	11人		20人		
	留守	19人		28人		
	拒否	75人		69人		
	不明	3人		12人		

### Ⅲ. 調査結果の概要

#### 1 調査対象者の基本的属性など

##### (1) 調査地域

登録者の全員は、前述の通り大阪腎臓バンクに登録をしている人々である。他方未登録者のうちのはほぼ半数は、旧市街地区である片山町，天道町，藤が丘町に居住する市民であり，残りのはほぼ半数の人々は集合住宅地区である古江台，藤白台に居住する市民である。（表1-1）

(2) 登録状況

全対象者のうち、登録者は753名(49.0%)、未登録者は783名(51.0%)である。(表1-1)

表1-1 地域別調査対象者

		調査地域			計
		大阪腎臓 バンク	片山町 天道 藤が丘	古江台 白台	
調査対象者	登録者	753 100.0% 100.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	753 100.0% 49.0%
	未登録者	0 0.0% 0.0%	392 50.1% 100.0%	391 49.9% 100.0%	783 100.0% 51.0%
計		753 49.0%	392 25.5%	391 25.5%	1536 100.0%

(3) 性別

登録者と未登録者の性別構成は相違せず、ほぼ男女同数である。(表1-2)

表1-2 性別調査対象者

		性別		計
		男性	女性	
調査対象者	登録者	376 49.9% 49.6%	377 50.1% 48.5%	753 100.0% 49.0%
	未登録者	382 48.8% 50.4%	401 51.2% 51.5%	783 100.0% 51.0%
計		758 49.3%	778 50.7%	1536 100.0%

(4) 年代

全対象者の年代の割合は、30才代が幾分大きく、50才代が小さい。各年代に占める対象者の割合は、登録者と未登録者で大差ないが、登録者ではやや若年層が、逆に未登録者ではやや高年層が多いという傾向が認められる。(表1-3)

表1-3 年代別調査対象者

		年代					計
		10代	20代	30代	40代	50代	
調査対象者	登録者	11 1.5% 100.0%	209 27.8% 53.5%	273 36.3% 51.7%	190 25.2% 43.4%	70 9.3% 41.7%	753 100.0% 49.0%
	未登録者	0 0.0% 0.0%	182 23.2% 46.5%	255 32.6% 48.3%	248 31.7% 56.6%	98 12.5% 58.3%	783 100.0% 51.0%
計		11 0.7%	391 25.5%	528 34.4%	438 28.5%	168 10.9%	1536 100.0%



(5) 職業

全対象者の職業のうち、主婦・無職（28.6%）が最も多く、これに次いで事務員・職員（14.8%）、工員・職人（13.7%）、自営業（10%）、そして専門職（9.9%）の人が多く、登録者には、未登録者に較べて、専門職や自営業の人が多く、逆に、無職（主に主婦）および工員の割合は未登録者の方が大きい。（表1-4）

表1-4 職業別調査対象者

		職業						
		専門職	医師	管理職	事務員・職員	工員・職人	自営業	利子生活者
調査対象者	登録者	99 13.8% 68.3%	11 1.5% 91.7%	53 7.4% 46.9%	96 13.4% 44.2%	80 11.2% 39.8%	89 12.4% 60.5%	4 0.6% 80.0%
	未登録者	46 6.1% 31.7%	1 0.1% 8.3%	60 8.0% 53.1%	121 16.1% 55.8%	121 16.1% 60.2%	58 7.7% 39.5%	1 0.1% 20.0%
	計	145 9.9%	12 0.8%	113 7.7%	217 14.8%	201 13.7%	147 10.0%	5 0.3%

職業						計
医学部生	学生	看護婦	看護学生	無職・主婦	その他	
8 1.1% 88.9%	38 5.3% 53.5%	31 4.3% 75.6%	7 1.0% 100.0%	151 21.1% 36.0%	49 6.8% 62.0%	716 100.0% 48.8%
1 0.1% 11.1%	33 4.4% 46.5%	10 1.3% 24.4%	0 0.0% 0.0%	268 35.7% 64.0%	30 4.0% 38.0%	750 100.0% 51.2%
9 0.6%	71 4.8%	41 2.8%	7 0.5%	419 28.6%	79 5.4%	1466 100.0%

(6) 学歴

全対象者の学歴のうち、高校卒業が43.9%と半数近くを占め、これに大学・大学院卒業（25.2%）が続いて大きな割合を占めている。登録者には、未登録者に較べて、大学・大学院の高学歴の人が多く、逆に、高校卒の学歴の人が未登録者に多い傾向がある。（表1-5）

表1-5 学歴別調査対象者

		学歴						計
		義務教育	高校	短大	大学	大学院	専門学校	
調査対象者	登録者	95 13.1% 50.3%	291 40.2% 45.1%	67 9.3% 45.6%	195 27.0% 54.5%	7 1.0% 58.3%	68 9.4% 57.6%	723 100.0% 49.2%
	未登録者	94 12.6% 49.7%	354 47.5% 54.9%	80 10.7% 54.4%	163 21.8% 45.5%	5 0.7% 41.7%	50 6.7% 42.4%	746 100.0% 50.8%
	計	189 12.9%	645 43.9%	147 10.0%	358 24.4%	12 0.8%	118 8.0%	1469 100.0%

(7) 結婚状況

全対象者のうち、ほぼ4人に3人は既婚者である。未婚者の割合は、未登録者よりも登録者において一層大きく、逆に既婚者の割合は未登録者において一層大きい。（表1-6）

表1-6 結婚状況別調査対象者

		結 婚 状 況			計
		未 婚	既 婚	そ の 他	
調 査 対 象 者	登 録 者	184 25.5% 59.7%	507 70.3% 45.7%	30 4.2% 62.5%	721 100.0% 49.2%
	未登録者	124 16.6% 40.3%	603 80.9% 54.3%	18 2.4% 37.5%	745 100.0% 50.8%
計		308 21.0%	1110 75.7%	48 3.3%	1466 100.0%

(8) 家族数

全対象者のうち、ほぼ3人に2人は4人以上の家族の一員である。単身者は6.3%と少ない。登録者には、未登録者に較べて、家族数の少ない人が多く、逆に未登録者には家族数の多い人が多い。（表1-7）

表1-7 家族数別調査対象者

		家 族 数								計
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	
調 査 対 象 者	登 録 者	66 9.1% 71.0%	92 12.7% 61.7%	141 19.5% 45.2%	249 34.5% 40.6%	110 15.2% 51.9%	47 6.5% 61.8%	14 1.9% 73.7%	3 0.4% 75.0%	722 100.0% 48.8%
	未登録者	27 3.6% 29.0%	57 7.5% 38.3%	171 22.6% 54.8%	365 48.2% 59.4%	102 13.5% 48.1%	29 3.8% 38.2%	5 0.7% 26.3%	1 0.1% 25.0%	757 100.0% 51.2%
計		93 6.3%	149 10.1%	312 21.1%	614 41.5%	212 14.3%	76 5.1%	19 1.3%	4 0.3%	1479 100.0%

(9) 信仰宗教

全対象者のうち、3人に1人の割合しか何らかの宗教を信仰している人はいない。信仰する宗教のうち、仏教が全体の64.4%と多数を占めている。信仰する宗教のある人の割合は、登録者と未登録者で差がない。（表1-8）

表1-8 信仰宗教別調査対象者

		宗 教				計
		仏 教	キリスト教	そ の 他	無回答	
調 査 対 象 者	登 録 者	138 18.3% 42.2%	44 5.8% 64.7%	78 10.4% 69.0%	493 65.5% 48.0%	753 100.0% 49.0%
	未登録者	189 24.1% 57.8%	24 3.1% 35.3%	35 4.5% 31.0%	535 68.3% 52.0%	783 100.0% 51.0%
計		327 21.3%	68 4.4%	113 7.4%	1028 66.9%	1536 100.0%

(10) 大病等の経験

長期間病気や怪我で苦しんだ経験のある人は、全対象者のうちの26.9%とほぼ4人に1人の割合である。この割合は、登録者と未登録者で相違しない。(表1-9)

表1-9 大病等の経験別調査対象者

		大病等の経験		計
		ある	ない	
調査対象者	登録者	201 28.0% 50.8%	517 72.0% 48.1%	718 100.0% 48.8%
	未登録者	195 25.9% 49.2%	557 74.1% 51.9%	752 100.0% 51.2%
計		396 26.9%	1074 73.1%	1470 100.0%

(11) 健康状態

現在の健康状態が「良い」とする人は全対象者の43.1%、「普通」とする人は51.9%である。健康状態が「悪い」とする人は5.1%と少ない。現在の健康状態が「良い」とする人の割合は、登録者において未登録者よりも一層大きく、逆に「普通」とする人の割合は未登録者において一層大きい。(表1-10)

表1-10 健康状態別調査対象者

		健康状態			計
		良い	ふつう	悪い	
調査対象者	登録者	389 54.0% 61.2%	301 41.7% 39.3%	31 4.3% 41.3%	721 100.0% 48.8%
	未登録者	247 32.7% 38.8%	465 61.5% 60.7%	44 5.8% 58.7%	756 100.0% 51.2%
計		636 43.1%	766 51.9%	75 5.1%	1477 100.0%

(12) 健康管理

自分の健康管理に気をつけている人は、全対象者の52.6%であり、半数余りの人が気をつけていることになる。健康管理に気をつけていない人は、全対象者の10%と少ない。健康管理に気をつけている人の割合は、登録者と未登録者で相違しない。(表1-11)

表1-11 健康管理別調査対象者

		健康管理			計
		気を使っている	どちらともいえない	気を使っていない	
調査対象者	登録者	382 53.0% 49.2%	258 35.8% 46.7%	81 11.2% 54.7%	721 100.0% 48.8%
	未登録者	394 52.2% 50.8%	294 38.9% 53.3%	67 8.9% 45.3%	755 100.0% 51.2%
計		776 52.6%	552 37.4%	148 10.0%	1476 100.0%

2 臓器移植・提供一般についての認知と態度

(1) 「臓器移植・提供」という言葉の認知経験

「臓器移植・提供」という言葉を今までに聞いたことのある人は、全対象者の98.8%と大多数を占めている。この言葉を聞いたことのない人の割合はわずか1.2%と非常に小さい。腎臓バンクに登録している人のこの言葉の認知水準（99.5%）は未登録者（一般社会人）のそれ（98.2%）よりも幾分高い。（表2-1）

表2-1 「臓器移植・提供」の認知経験

		「臓器移植・提供」の認知経験		計
		ある	ない	
調査対象者	登録者	747 99.5% 49.3%	4 0.5% 22.2%	751 100.0% 49.0%
	未登録者	768 98.2% 50.7%	14 1.8% 77.8%	782 100.0% 51.0%
計		1515 98.8%	18 1.2%	1533 100.0%

(2) 「腎臓移植・提供」という言葉の認知媒体

多数の対象者は、「臓器移植・提供」という言葉をテレビ・ラジオ（79.7%）や新聞・雑誌（79.1%）などのマスコミ媒体を通じて聞いたり見たりしている。しかし、友人・知人（13.0%）や家族・親戚の人（12.3%）などのパーソナルコミ媒体を通じて聞いた人もいくらかいる。これらの傾向のみならず、マスコミ媒体とパーソナルコミ媒体の割合も、腎臓バンク登録者と未登録者間でほとんど相違しない。（表2-2）

表2-2 「臓器移植・提供」の認知媒体

		「臓器移植・提供」の認知媒体				
		新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	ポスター	公報・市報	自治会報・ 回覧板
認知経験者	登録者	599 38.2% 80.5% 50.2%	602 38.4% 80.9% 50.0%	87 5.5% 11.7% 51.8%	38 2.4% 5.1% 50.7%	8 0.5% 1.1% 66.7%
	未登録者	595 37.4% 77.7% 49.8%	602 37.8% 78.6% 50.0%	81 5.1% 10.6% 48.2%	37 2.3% 4.8% 49.3%	4 0.3% 0.5% 33.3%
計		1194 37.8% 79.1% 100.0%	1204 38.1% 79.7% 100.0%	168 5.3% 11.1% 100.0%	75 2.4% 5.0% 100.0%	12 0.4% 0.8% 100.0%

「臓器移植・提供」の認知媒体				計	
ミニコミ誌	家族・親戚 から聞いて	友人・知人 から聞いて	その他		
19 1.2% 2.6% 44.2%	80 5.1% 10.8% 43.0%	96 6.1% 12.9% 48.7%	40 2.5% 5.4% 49.4%	1569 100.0% 49.7%	744 100.0% 49.3%
24 1.5% 3.1% 55.8%	106 6.7% 13.8% 57.0%	101 6.3% 13.2% 51.3%	41 2.6% 5.4% 50.6%	1591 100.0% 50.3%	766 100.0% 50.7%
43 1.4% 2.8% 100.0%	186 5.9% 12.3% 100.0%	197 6.2% 13.0% 100.0%	81 2.6% 5.4% 100.0%	3160 100.0% 100.0%	1510 100.0% 100.0%

(3) 生体臓器移植と死体臓器移植・提供の違いの認知

生体臓器移植と死体臓器移植の違いを知っている人は、全対象者の84.4%と多数を占め、ほぼ6人に5人がこの違いを知っていることになる。この違いを知っている人の割合は、未登録者(77.6%)よりも登録者(91.6%)において、一層大きい。(表2-3)

表2-3 生体臓器移植と死体臓器移植の違いの認知

		生体臓器移植と死体臓器移植提供の違いの認知		計
		知っている	知らない	
調査対象者	登録者	664 91.6% 53.0%	61 8.4% 26.4%	725 100.0% 48.9%
	未登録者	589 77.6% 47.0%	170 22.4% 73.6%	759 100.0% 51.1%
計		1253 84.4%	231 15.6%	1484 100.0%

(4) 生体あるいは死体臓器移植・提供への態度

「生体臓器移植」と「死体臓器移植」の両方に賛成の人が44.1%と最も多く、これに次いで、「死体臓器移植」に賛成の人が32.5%と多い。しかし「よくわからない」とする人も16.5%とかなりいる。両方に賛成する人は、未登録者(29.3%)に較べて登録者(59.5%)において2倍近くいる。「死体臓器移植」に賛成する人の割合は両群で差がなく、「よくわからない」とする人は登録者(5.1%)よりも未登録者(27.5%)の方に一層多い。(表2-4)

表2-4 生体あるいは死体臓器移植・提供への態度

		生体あるいは死体臓器移植・提供への態度					計	
		生体臓器移植・死体臓器移植ともに賛成	生体臓器移植に賛成	死体臓器移植に賛成	生体臓器移植・死体臓器移植ともに反対	その他		わからない
調査対象者	登録者	447 59.5% 66.2%	9 1.2% 36.0%	234 31.2% 47.1%	0 0.0% 0.0%	23 3.1% 52.3%	38 5.1% 15.1%	751 100.0% 49.1%
	未登録者	228 29.3% 33.8%	16 2.1% 64.0%	263 33.8% 52.9%	36 4.6% 100.0%	21 2.7% 47.7%	214 27.5% 84.9%	778 100.0% 50.9%
計		675 44.1%	25 1.6%	497 32.5%	36 2.4%	44 2.9%	252 16.5%	1529 100.0%

(5) 死体臓器移植における時間的制約の認知

死体より臓器を摘出する際、時間的制約のあることを知っている人は、全対象者のうちの88.1%であり、ほとんどの人がこのことを知っている。認知者の割合は、未登録者(81.3%)に較べて登録者(95.2%)において一層大きく、逆に知らない人の割合は登録者(4.8%)よりも未登録者(18.7%)において一層大きい。(表2-5)

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

表 2-5 死体臓器移植における時間的制約の認知

		死体臓器移植における時間的制約の認知		計
		知っていた	知らなかった	
調査対象者	登録者	716 95.2% 53.0%	36 4.8% 19.8%	752 100.0% 49.1%
	未登録者	634 81.3% 47.0%	146 18.7% 80.2%	780 100.0% 50.9%
計		1350 88.1%	182 11.9%	1532 100.0%

(6) 日本と欧米の臓器摘出時期の違いの認知

臓器の摘出時期が日本と欧米で違うことを知っている人は、全対象者の52.3%と半数余りしかいない。登録者では知っている人（65.2%）の方が知らない人（34.8%）より多いが、逆に未登録者では知らないの方が60.1%と半数を越えて多い。（表 2-6）

表 2-6 日本と欧米の臓器摘出時期の違いの認知

		日本と欧米の臓器摘出時期の違いの認知		計
		知っていた	知らなかった	
調査対象者	登録者	490 65.2% 61.1%	262 34.8% 35.8%	752 100.0% 49.0%
	未登録者	312 39.9% 38.9%	470 60.1% 64.2%	782 100.0% 51.0%
計		802 52.3%	732 47.7%	1534 100.0%

(7) 日本あるいは欧米の臓器摘出時期に対する態度

臓器摘出時期について、「日本の方がよい」とする人が最も多く（36.7%）、次いで「わからない」とする人が多い（25.7%）。しかし、「欧米の方がよい」とする人や「わからない」とする人は、登録者に比べて未登録者の方が多く、逆に「欧米の方がよい」とする人は、未登録者（8.7%）よりも登録者（31.5%）において一層多い。（表 2-7）

表 2-7 日本あるいは欧米の臓器摘出時期に対する態度

		日本あるいは欧米の臓器摘出時期に対する態度					計
		日本	欧米	どちらでもよい	その他	わからない	
調査対象者	登録者	218 29.0% 38.8%	237 31.5% 77.7%	139 18.5% 60.7%	30 4.0% 69.8%	128 17.0% 32.6%	752 100.0% 49.1%
	未登録者	344 44.1% 61.2%	68 8.7% 22.3%	90 11.5% 39.3%	13 1.7% 30.2%	265 34.0% 67.4%	780 100.0% 50.9%
計		562 36.7%	305 19.9%	229 14.9%	43 2.8%	393 25.7%	1532 100.0%

(8) 臓器移植・提供に関する法律の認知

移植に関する法律が臓器の摘出に際して必要な事柄を規定していることを知っている人は、全対象者の79.4%とかなりいる。このことを知っている人の割合は、未登録者（73.2%）に較

べて登録者 (85.8%) において一層大きい。(表 2-8)

表 2-8 臓器移植・提供に関する法律の認知

		臓器移植・提供に関する法律の認知		計
		知っていた	知らなかった	
調査対象者	登録者	644 85.8% 53.0%	107 14.2% 33.9%	751 100.0% 49.1%
	未登録者	571 73.2% 47.0%	209 26.8% 66.1%	780 100.0% 50.9%
計		1215 79.4%	316 20.6%	1531 100.0%

(9) 死後の臓器摘出における家族の同意の必要性に対する態度

臓器の摘出に家族の同意が必要であることに対して、「本人の意志を尊重すべし」とする人が半数余り (51.6%) おり、逆に「家族の意志を尊重すべし」とする人は全体の36.0%いる。「本人の意志を尊重すべし」とする人の割合は、未登録者 (33.4%) に較べて、登録者 (70.6%) において一層大きく、逆に「家族の意志を尊重すべし」とする人の割合は、登録者 (21.4%) よりも未登録者 (50.0%) において一層大きい。(表 2-9)

表 2-9 死後の臓器摘出における家族の同意の必要性に対する態度

		死後の臓器摘出における家族の同意の必要性に対する態度				計
		本人の意志を尊重し、家族の同意がなくとも臓器移植・提供を行うべきだ	家族の意志を尊重し、家族の同意がある場合のみ、臓器移植・提供を行うべきだ	その他	わからない	
調査対象者	登録者	531 70.6% 67.0%	161 21.4% 29.2%	28 3.7% 45.2%	32 4.3% 25.0%	752 100.0% 49.0%
	未登録者	261 33.4% 33.0%	391 50.0% 70.8%	34 4.3% 54.8%	96 12.3% 75.0%	782 100.0% 51.0%
計		792 51.6%	552 36.0%	62 4.0%	128 8.3%	1534 100.0%

3 内臓、骨、角膜、皮膚、血液などの提供意向など

(1) 死後の臓器提供意向の程度

死後臓器を提供するとしたら「すべての臓器」(献体) を提供してもよいとする人は、全体の37.2%、「数種の臓器」は27.8%、そして「一種の臓器」は12.6%、「血液のみ」が6.2%である。また、「全く提供する気がない」とする人が16.2%もいる。少なくとも一種類の臓器を提供してもよいとする人の割合は、未登録者 (56.3%) に較べて登録者 (99.4%) において一層大きく、逆に血液だけならとか、あるいは全くいやとする人の割合は登録者 (0.6%) よりも未登録者 (43.7%) において一層大きい。登録者でありながら、一種類の臓器も提供したくないと思っている人が5人いるが、この人たちは、登録後に考えを変えた人たちであろう。

(表 3-1)

表 3-1 死後の臓器提供意向の程度

		死後の臓器提供意向の程度					計
		すべての臓器（すなわち献体）	数種の臓器	一種の臓器（“腎臓のみ”など）	血液のみ	すべていや	
調査対象者	登録者	411 54.7% 72.6%	275 36.6% 65.0%	61 8.1% 31.8%	1 0.1% 1.1%	4 0.5% 1.6%	752 100.0% 49.4%
	未登録者	155 20.1% 27.4%	148 19.2% 35.0%	131 17.0% 68.2%	94 12.2% 98.9%	243 31.5% 98.4%	771 100.0% 50.6%
計		566 37.2%	423 27.8%	192 12.6%	95 6.2%	247 16.2%	1523 100.0%

(2) 死後の臓器提供意向の理由

表 3-2 死後の臓器提供意向の理由

		死後の臓器提供意向の理由				
		何か社会的な貢献がしたかった ので	自分のまわりに腎臓機能障害のある人がいて、その苦しみを知っているから	友人・知人に頼まれて	会社・学校・所属団体などの勧めがあった（ある）ので	友人・知人などが提供した（する）ので
提供意向者	登録者	353 18.7% 70.3%	231 12.3% 75.0%	12 0.6% 70.6%	7 0.4% 70.0%	15 0.8% 78.9%
	未登録者	149 17.0% 29.7%	77 8.8% 25.0%	5 0.6% 29.4%	3 0.3% 30.0%	4 0.5% 21.1%
計		502 18.2% 100.0%	308 11.2% 100.0%	17 0.6% 100.0%	10 0.4% 100.0%	19 0.7% 100.0%

死後の臓器提供意向の理由					
困っている人を助けることは、当然のことだから	何となく良いことだと思っ て	腎臓移植に興味をもったの で	職業上何らかの関係がある ので	臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して	社会に対する義務感から
356 18.9% 61.8%	111 5.9% 47.6%	77 4.1% 88.5%	74 3.9% 84.1%	456 24.2% 71.7%	85 4.5% 74.6%
220 25.2% 38.2%	122 14.0% 52.4%	10 1.1% 11.5%	14 1.6% 15.9%	180 20.6% 28.3%	29 3.3% 25.4%
576 20.9% 100.0%	233 8.5% 100.0%	87 3.2% 100.0%	88 3.2% 100.0%	636 23.1% 100.0%	114 4.1% 100.0%

死後の臓器提供意向の理由		計	
もし実際に提供した場合何らかのお返しが期待できるかもしれないので	その他		
7 0.4% 41.2%	99 5.3% 66.0%	1883 100.0% 68.3%	742 100.0% 59.3%
10 1.1% 58.8%	51 5.8% 34.0%	874 100.0% 31.7%	509 100.0% 40.7%
17 0.6% 100.0%	150 5.4% 100.0%	2757 100.0% 100.0%	1251 100.0% 100.0%



死後自分の臓器を提供してもよいと思う理由としては、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」(50.8%)が最も多く、半数の対象者が理由に挙げている。これに次いで、「困っている人を助けるのは当然のことなので」(46.0%)、「何か社会的な貢献がしたかったので」(40.1%)、そして「自分のまわりに腎臓障害のある人がいて、その苦しみを知っているから」(24.6%)などの理由が多く挙げられた。

腎臓バンク登録者と未登録者を比較すると、「必要性・重要性の認識」を登録者の6割余りの人(61.5%)が挙げて最多理由になっているのに比して、「当然の行為だから」(43.2%)が未登録者では最多理由となり、また「何となく良いことだから」(24.0%)も比較的大きな理由になって、「紋切型の善観念」が提供意向の理由になっている。(表3-2)

(3) 死後の血液のみの提供意向の理由

死後血液のみなら提供してもよいとする理由では、「遺体を傷つけられたくない」とするものが全体の75.8%と非常に多い。なお、「健康上の点から」とするものも全体の16.8%といくらかいる。血液のみなら提供してもよいとする人(105人)のうちで、腎臓バンクに登録している人は1人(1.1%)だけであり、登録後に提供意向を変えたものと思われる。(表3-3)

表3-3 死後の血液のみの提供意向の理由

		死後の血液のみの提供意向の理由						
		健康上の点から	宗教上の点から	所属団体の方針から	家族の反対があるから	できるだけ遺体を傷つけられたくないので		
提供意向者	登録者	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	1 100.0% 1.4%	1 100.0%
	未登録者	16 15.4% 100.0%	3 2.9% 100.0%	0 0.0% 0.0%	5 4.8% 100.0%	71 5.3% 100.0%	71 68.3% 98.6%	94 75.5%
計		16 15.2% 100.0%	3 2.9% 100.0%	0 0.0% 0.0%	5 4.8% 100.0%	72 5.3% 100.0%	72 68.6% 100.0%	95 75.8%

その他	計	
0 0.0% 0.0%	1 100.0% 1.0%	1 100.0% 1.1%
9 8.7% 100.0%	104 100.0% 99.0%	94 100.0% 98.9%
9 8.6% 100.0%	105 100.0% 100.0%	95 100.0% 100.0%

(4) 死後の臓器提供の拒否理由

死後いずれの臓器も提供する意志のない理由には、「遺体を傷つけられたくないので」とする人が全体の56.7%と一番多く、これに次いで「何となく不安だから」とする人が35.8%が多い。「家族の反対があるから」(11.9%)、「他の人に提供する必要はないと思うから」(11.1%)、

「興味がないから」（11.1%）、「健康上の点から」（9.5%）などもいくらかその理由となっている。（表3-4）

表3-4 死後の臓器提供の拒否理由

		死後の臓器提供の拒否理由				
		遺体を傷つけられたいくないので	何となく不安だから	いたそうなので	健康上の点から	宗教上の点から
提供拒否者	登録者	2 22.2% 66.7% 1.4%	2 22.2% 66.7% 2.3%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
	未登録者	138 33.3% 57.5% 98.6%	85 20.5% 35.4% 97.7%	4 1.0% 1.7% 100.0%	23 5.5% 9.6% 100.0%	13 3.1% 5.4% 100.0%
計		140 33.0% 57.6% 100.0%	87 20.5% 35.8% 100.0%	4 0.9% 1.6% 100.0%	23 5.4% 9.5% 100.0%	13 3.1% 5.3% 100.0%

死後の臓器提供の拒否理由					
他の人が提供する ので	家族の反対がある ので	手続きが面倒な ので	将来自分の家族が 移植を必要とする かもしれないので	自分の臓器を他の 人に提供する必要 はないと思うので	縁起が悪いので
0 0.0% 0.0%	1 11.1% 33.3% 3.4%	1 11.1% 33.3% 16.7%	1 11.1% 33.3% 5.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
3 0.7% 1.3% 100.0%	28 6.7% 11.7% 96.6%	5 1.2% 2.1% 83.3%	19 4.6% 7.9% 95.0%	27 6.5% 11.3% 100.0%	14 3.4% 5.8% 100.0%
3 0.7% 1.2% 100.0%	29 6.8% 11.9% 100.0%	6 1.4% 2.5% 100.0%	20 4.7% 8.2% 100.0%	27 6.4% 11.1% 100.0%	14 3.3% 5.8% 100.0%

死後の臓器提供の拒否理由			計	
葬式に手間どり そうだから	興味がないので	その他		
0 0.0% 0.0%	1 11.1% 33.3% 3.7%	1 11.1% 33.3% 4.3%	9 100.0%	3 100.0%
8 1.9% 3.3% 100.0%	26 6.3% 10.8% 96.3%	22 5.3% 9.2% 95.7%	415 100.0%	240 100.0%
8 1.9% 3.3% 100.0%	27 6.4% 11.1% 100.0%	23 5.4% 9.5% 100.0%	424 100.0%	243 100.0%

(5) 臓器提供意向の相手と提供時期による違い

臓器提供意向について、次のようなことが明らかとなった。（表3-5-1～表3-5-12）

- 家族の誰かが必要ならば、死後自分の臓器をほとんどの人（91.3%）が提供してもよいと考えている。しかし、生きている間に家族の一員に提供するとなると、その割合は70.3%まで落ちるが、それでもかなり高い率である。
- 提供の相手が家族から見知らぬ人まで親密さの程度が減じるにつれて、提供意図を持つ人の割合は生体・死体いずれの場合でも有意に減じる。
- 未登録者と登録者の提供意図を比較すると、提供してもよいと考えている人の割合は、移植相手がだれであろうとも、また、生体・死体いずれの提供であろうとも、後者において一

貫して一層大きい。

- d) 死体臓器提供の場合、登録者は相手によって提供意図をほとんど変えない（見知らぬ人に対しても93.1%の人が提供してもよいとしている）。しかしながら生体臓器提供の場合、未登録者と同じように、登録者も相手によって提供の意向を違えている。
- e) 提供者と最も関係の薄い「見知らぬ人」に未登録者が臓器を提供する場合、提供意向のあ

表 3-5-1 家族への死体臓器提供の意向

		家族への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	583 80.4% 60.5%	139 19.2% 32.3%	0 0.0% 0.0%	2 0.3% 15.4%	1 0.1% 5.9%	725 100.0% 49.6%
	未登録者	380 51.6% 39.5%	292 39.7% 67.7%	37 5.0% 100.0%	11 1.5% 84.6%	16 2.2% 94.1%	736 100.0% 50.4%
計		963 65.9%	431 29.5%	37 2.5%	13 0.9%	17 1.2%	1461 100.0%

表 3-5-2 家族への生体臓器提供の意向

		家族への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	367 52.0% 60.5%	251 35.6% 49.2%	54 7.6% 31.8%	22 3.1% 28.2%	12 1.7% 23.5%	706 100.0% 49.9%
	未登録者	240 33.8% 39.5%	259 36.5% 50.8%	116 16.3% 68.2%	56 7.9% 71.8%	39 5.5% 76.5%	710 100.0% 50.1%
計		607 42.9%	510 36.0%	170 12.0%	78 5.5%	51 3.6%	1416 100.0%

表 3-5-3 親戚への死体臓器提供の意向

		親戚への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	417 58.1% 76.4%	285 39.7% 44.4%	12 1.7% 8.2%	1 0.1% 2.0%	3 0.4% 7.5%	718 100.0% 50.4%
	未登録者	129 18.2% 23.6%	357 50.5% 55.6%	135 19.1% 91.8%	49 6.9% 98.0%	37 5.2% 92.5%	707 100.0% 49.6%
計		546 38.3%	642 45.1%	147 10.3%	50 3.5%	40 2.8%	1425 100.0%

表 3-5-4 親戚への生体臓器提供の意向

		親戚への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	77 11.4% 66.4%	265 39.1% 59.2%	186 27.4% 44.6%	108 15.9% 46.4%	42 6.2% 30.2%	678 100.0% 50.1%
	未登録者	39 5.8% 33.6%	183 27.1% 40.8%	231 34.2% 55.4%	125 18.5% 53.6%	97 14.4% 69.8%	675 100.0% 49.9%
計		116 8.6%	448 33.1%	417 30.8%	233 17.2%	139 10.3%	1353 100.0%

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

る人の割合は、死体臓器提供で33.5%，生体臓器提供で7.2%とかなり低い。登録者のそれは、それぞれ93.1%，19.8%と未登録者の割合よりも有意に大きい。

表3-5-5 友人への死体臓器提供の意向

		友人への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査 対象者	登録者	391 54.5% 82.5%	301 42.0% 51.4%	19 2.6% 9.8%	5 0.7% 5.2%	1 0.1% 1.5%	717 100.0% 50.6%
	未登録者	831 1.9% 17.5%	285 40.7% 48.6%	175 25.0% 90.2%	91 13.0% 94.8%	66 9.4% 98.5%	700 100.0% 49.4%
計		474 33.5%	586 41.4%	194 13.7%	96 6.8%	67 4.7%	1417 100.0%

表3-5-6 友人への生体臓器提供の意向

		友人への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査 対象者	登録者	55 8.2% 72.4%	200 29.7% 66.9%	219 32.5% 48.7%	143 21.2% 44.8%	56 8.3% 27.6%	673 100.0% 50.0%
	未登録者	21 3.1% 27.6%	99 14.7% 33.1%	231 34.3% 51.3%	176 26.1% 55.2%	147 21.8% 72.4%	674 100.0% 50.0%
計		76 5.6%	299 22.2%	450 33.4%	319 23.7%	203 15.1%	1347 100.0%

表3-5-7 知人への死体臓器提供の意向

		知人への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査 対象者	登録者	357 49.9% 87.1%	319 44.6% 57.4%	31 4.3% 13.7%	8 1.1% 6.2%	1 0.1% 1.1%	716 100.0% 50.7%
	未登録者	53 7.6% 12.9%	237 34.1% 42.6%	196 28.2% 86.3%	121 17.4% 93.8%	89 12.8% 98.9%	696 100.0% 49.3%
計		410 29.0%	556 39.4%	227 16.1%	129 9.1%	90 6.4%	1412 100.0%

表3-5-8 知人への生体臓器提供の意向

		知人への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査 対象者	登録者	32 4.8% 69.6%	141 21.2% 71.6%	238 35.8% 51.7%	177 26.6% 46.5%	77 11.6% 30.4%	665 100.0% 49.7%
	未登録者	14 2.1% 30.4%	56 8.3% 28.4%	222 33.0% 48.3%	204 30.4% 53.5%	176 26.2% 69.6%	672 100.0% 50.3%
計		46 3.4%	197 14.7%	460 34.4%	381 28.5%	253 18.9%	1337 100.0%

表3-5-9 恩師・恩人への死体臓器提供の意向

		恩師・恩人への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	390 54.4% 84.8%	297 41.4% 52.2%	24 3.3% 11.7%	3 0.4% 3.2%	3 0.4% 3.5%	717 100.0% 50.7%
	未登録者	70 10.1% 15.2%	272 39.1% 47.8%	181 26.0% 88.3%	90 12.9% 96.8%	83 11.9% 96.5%	696 100.0% 49.3%
計		460 32.6%	569 40.3%	205 14.5%	93 6.6%	86 6.1%	1413 100.0%

表3-5-10 恩師・恩人への生体臓器提供の意向

		恩師・恩人への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	51 7.6% 73.9%	183 27.2% 67.0%	228 33.9% 50.0%	140 20.8% 44.7%	70 10.4% 29.8%	672 100.0% 49.9%
	未登録者	18 2.7% 26.1%	90 13.4% 33.0%	228 33.8% 50.0%	173 25.7% 55.3%	165 24.5% 70.2%	672 100.0% 50.1%
計		69 5.1%	273 20.3%	456 33.9%	313 23.3%	235 17.5%	1346 100.0%

表3-5-11 見知らぬ人への死体臓器提供の意向

		見知らぬ人への死体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	337 45.9% 89.2%	347 47.2% 64.3%	41 5.6% 19.7%	6 0.8% 4.2%	4 0.5% 2.5%	735 100.0% 51.3%
	未登録者	41 5.9% 10.8%	193 27.7% 35.7%	167 23.9% 80.3%	138 19.8% 95.8%	159 22.8% 97.5%	698 100.0% 48.7%
計		378 26.4%	540 37.7%	208 14.5%	144 10.0%	163 11.4%	1433 100.0%

表3-5-12 見知らぬ人への生体臓器提供の意向

		見知らぬ人への生体臓器提供の意向					計
		絶対提供に 応じる	提供に応じ てもよい	どちらとも いえない	あまり提供に 応じたくない	絶対提供に 応じたくない	
調査対象者	登録者	19 2.8% 79.2%	115 17.0% 72.3%	194 28.6% 56.6%	208 30.7% 49.8%	142 20.9% 34.7%	678 100.0% 50.1%
	未登録者	5 0.7% 20.8%	44 6.5% 27.7%	149 22.1% 43.4%	210 31.1% 50.2%	267 39.6% 65.3%	675 100.0% 49.9%
計		24 1.8%	159 11.8%	343 25.4%	418 30.9%	409 30.2%	1353 100.0%

## 4 腎臓バンクについての認知と態度

## (1) 「腎臓バンク」という言葉の認知

「腎臓バンク」という言葉を今までに聞いたことのある人は、全対象者の75.4%を占めている。未登録者のこの言葉の認知水準は53.1%とほぼ半分にすぎない。（表4-1）

表4-1 「腎臓バンク」の認知経験

		「腎臓バンク」の認知経験		計
		ある	ない	
調査対象者	登録者	740	12	752
		98.4%	1.6%	100.0%
	未登録者	413	365	778
		53.1%	46.9%	100.0%
計	1153	377	1530	
		75.4%	24.6%	100.0%

## (2) 「腎臓バンク」という言葉の認知

対象者の多くは、「腎臓バンク」という言葉をテレビ・ラジオ（70.8%）や新聞・雑誌（66.8%）などのマスコミ媒体を通じて見たり聞いたりしている。友人・知人（13.5%）や家族・親戚の人（13.4%）などのパーソナルコミ媒体によって聞いたことのある人もいくらかいる。腎臓バンク登録者と未登録者を比較すると、パーソナルコミ媒体による認知は後者よりも前者に多く、逆にマスコミ媒体による認知は前者よりも後者に多いようである。（表4-2）

表4-2 「腎臓バンク」の認知媒体

		「腎臓バンク」の認知媒体				
		新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	ポスター	公報・市報	自治会報・ 回覧板
認知経験者	登録者	451 30.5% 61.4% 58.9%	497 33.6% 67.7% 61.2%	138 9.3% 18.8% 80.7%	58 3.9% 7.9% 68.2%	8 0.5% 1.1% 53.3%
	未登録者	315 40.3% 76.3% 41.1%	315 40.3% 76.3% 38.8%	33 4.2% 8.0% 19.3%	27 3.5% 6.5% 31.8%	7 0.9% 1.7% 46.7%
計		766 33.9% 66.8% 100.0%	812 35.9% 70.8% 100.0%	171 7.6% 14.9% 100.0%	85 3.8% 7.4% 100.0%	15 0.7% 1.3% 100.0%

「腎臓バンク」の認知媒体				計	
ミニコミ誌	家族・親戚 から聞いて	友人・知人 から聞いて	その他		
17 1.2% 2.3% 51.5%	137 9.3% 18.7% 89.0%	115 7.8% 15.7% 74.2%	56 3.8% 7.6% 82.4%	1477	734
16 2.0% 3.9% 48.5%	17 2.2% 4.1% 11.0%	40 5.1% 9.7% 25.8%	12 1.5% 2.9% 17.6%	782	413
33 1.5% 2.9% 100.0%	154 6.8% 13.4% 100.0%	155 6.9% 13.5% 100.0%	68 3.0% 5.9% 100.0%	2259	1147

(3) 腎臓バンクの登録制度の認知

腎臓バンクが腎臓提供を申し出て登録された人たちからなっていることを知っている（知っていた）人の割合は、未登録者では全体の45.6%おり、過半数（54.4%）の人は、そのことを知らない。他方登録者では、登録以前からそのことを知っていた人の割合が86.7%にも達している。（表4-3）

表4-3 腎臓バンクの登録制度の認知

		腎臓バンクの登録制度の認知		計
		知っている (知っていた)	知らない (知らなかった)	
調査対象者	登録者	637 86.7%	98 13.3%	735 100.0%
	未登録者	343 45.6%	410 54.4%	753 100.0%
計		980 65.9%	508 34.1%	1488 100.0%

(4) 腎臓バンクへの登録の取消しについての認知

バンクへの登録が、自分の意志でいつでも自由に取り消せることを知っている（知っていた）人の割合は、全対象者の23.3%にしかすぎず、大半の人がそのことを知らない（知らなかった）。登録者では、登録前にそのことを知っていた人が36.6%と、他の認知水準（登録制度や年齢制限の認知）よりも低いことを示している。また、未登録者では、その認知率が10.2%と非常に低い。（表4-4）

表4-4 腎臓バンクへの登録の取消しについての認知

		腎臓バンクへの登録の取消しについての認知		計
		知っている (知っていた)	知らない (知らなかった)	
調査対象者	登録者	275 36.6%	477 63.4%	752 100.0%
	未登録者	78 10.2%	686 89.8%	764 100.0%
計		353 23.3%	1163 76.7%	1516 100.0%

(5) 腎臓バンクへの登録の取消しに対する態度

登録の取り消しについて、全対象者の77.1%は、現在の方法、すなわち自分の意志でいつでも取り消せる方を支持している。特にこの態度を持つ人は、登録者において一層多く、8割を占めている。一度登録すれば、取り消すことができない方が良いとする人の割合は、登録者で

6.8%，未登録者で2.3%と非常に少ない。（表4-5）

表4-5 腎臓バンクへの登録の取消しに対する態度

		腎臓バンクへの登録の取消しに対する態度				計
		一度登録すれば、取り消すことができない方が良い	現在の方法で良い（自分の意志でいつでも取り消せる）	どちらでも良い	わからない	
調査対象者	登録者	51 6.8% 73.9%	602 80.4% 51.5%	84 11.2% 62.2%	12 1.6% 8.4%	749 100.0% 49.4%
	未登録者	18 2.3% 26.1%	568 74.0% 48.5%	51 6.6% 37.8%	131 17.1% 91.6%	768 100.0% 50.6%
計		69 4.5%	1170 77.1%	135 8.9%	143 9.4%	1517 100.0%

(6) 腎臓バンクへの登録の年齢制限の認知

登録に際して年齢制限があることを知っている（知っていた）人は、対象者の36.9%で、6割以上の人たちは、そのことを知らない（知らなかった）。特に、未登録者においては、年齢制限のあることを知らない者が87.7%の多数を占めている。（表4-6）

表4-6 腎臓バンクへの登録の年齢制限の認知

		腎臓バンクへの登録の年齢制限の認知		計
		知っている（知っていた）	知らない（知らなかった）	
調査対象者	登録者	465 61.8% 83.2%	287 38.2% 30.0%	752 100.0% 49.6%
	未登録者	94 12.3% 16.8%	669 87.7% 70.0%	763 100.0% 50.4%
計		559 36.9%	956 63.1%	1515 100.0%

(7) 腎臓バンクについての意見

腎臓バンクについて対象者の多くは、「苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある」（77.7%）と高く評価しており、さらに「マスコミ・教育を通して、バンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ」（56.2%）、あるいは「もっと全国的に増やすべきだ」（41.0%）といった積極的な支持の意見を持っている。腎臓バンク登録者と未登録者の意見を比較すると、「もっと全国的に増やすべきだ」（63.3%）とか「マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ」（74.7%）という意見は、後者よりも前者に多く、逆に、「苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある」（68.0%）という好意的意見と「バンクには興味がない」（8.3%）とする非好意的意見は、むしろ前者より後者に多いようである。（表4-7）



表4-7 腎臓バンクについての意見

		腎臓バンクについての意見				
		バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある	バンクは、社会福祉を促進することに役立つことで意義がある	バンクをもっと全国的に増やすべきだ	マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ	バンクは、国家レベルで行うべきだ
調査対象者	登録者	650 25.2% 87.4% 56.1%	255 9.9% 34.3% 64.9%	471 18.2% 63.3% 77.0%	556 21.5% 74.7% 66.3%	354 13.7% 47.6% 63.7%
	未登録者	509 33.0% 68.0% 43.9%	138 8.9% 18.4% 35.1%	141 9.1% 18.9% 23.0%	283 18.4% 37.8% 33.7%	202 13.1% 27.0% 36.3%
計		1159 28.1% 77.7% 100.0%	393 9.5% 26.3% 100.0%	612 14.8% 41.0% 100.0%	839 20.3% 56.2% 100.0%	556 13.5% 37.3% 100.0%

腎臓バンクについての意見					計	
バンクは、病院レベルで行うべきだ	バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない	患者の家族が率先して登録すべきだ	バンクには興味がない	その他		
63 2.4% 8.5% 61.8%	12 0.5% 1.6% 27.9%	192 7.4% 25.8% 62.3%	3 0.1% 0.4% 4.6%	27 1.0% 3.6% 56.3%	2583 100.0%	744 100.0%
39 2.5% 5.4% 38.2%	31 2.0% 4.1% 72.1%	116 7.5% 15.5% 37.7%	62 4.0% 8.3% 95.4%	21 1.4% 2.8% 43.8%	1542 100.0%	748 100.0%
102 2.5% 6.8% 100.0%	43 1.0% 2.9% 100.0%	308 7.5% 20.6% 100.0%	65 1.6% 4.4% 100.0%	48 1.2% 3.2% 100.0%	4125 100.0%	1492 100.0%

## 5 腎臓バンクへの登録

### (1) 腎臓バンクへの登録意向

未登録者でバンクへの登録意向を持っている人は、「登録しようと思う」、「できれば登録しようと思う」とする人を合わせて28.0%いる。それに対して登録意志のない人は、「登録したくない」、「登録できない」とする人を合わせて32.4%いる。また、「わからない」と回答している態度不明者が、およそ4割（39.6%）と最も多数を占めている。（表5-1）

表5-1 腎臓バンクの登録意向

		腎臓バンクへの登録意向						計
		もうすでに登録している	登録しようと思う	できれば登録しようと思う	登録したくない	登録できない	わからない	
調査対象者	登録者	753 100.0% 100.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	753 100.0% 49.4%
	未登録者	0 0.0% 0.0%	28 3.6% 100.0%	188 24.4% 100.0%	215 27.9% 100.0%	35 4.5% 100.0%	305 39.6% 100.0%	771 100.0% 50.6%
計		753 49.4%	28 1.8%	188 12.3%	215 14.1%	35 2.3%	305 20.0%	1524 100.0%

(2) 腎臓バンクへの登録の相談

既に登録している人、及び登録意向を持っている人のなかで、登録に際して「家族に相談し、同意を得てから登録した（登録する）」とする人（59.4%）が最も多く、これに次いで「一人で決めて登録した（登録する）」とする人（30.5%）が多い。特に登録意向者においては、家族の同意を得てからという人（74.2%）が既登録者のそれ（55.2%）より一層大きい割合を占めている。また「一人で決めて登録した（登録する）」では、逆に、既登録者（34.9%）の方が登録意向者（15.0%）より大きな割合を占めている。（表5-2）

表5-2 腎臓バンクへの登録の相談

	腎臓バンクへの登録の相談				その他	計
	家族に相談し同意を得てから登録した（登録する）	家族に相談し反対されても登録した（登録する）	友人・知人に相談し登録した（登録する）	誰にも相談せずに一人で決めて登録した（登録する）		
登録者（既登録者）	413 55.2% 72.3%	38 5.1% 67.9%	10 1.3% 90.9%	261 34.9% 89.1%	26 3.5% 86.7%	748 100.0% 77.8%
未登録者（登録意向者）	158 74.2% 27.7%	18 8.5% 32.1%	1 0.5% 9.1%	32 15.0% 10.9%	4 1.9% 13.3%	213 100.0% 22.2%
計	571 59.4%	56 5.8%	11 1.1%	293 30.5%	30 3.1%	961 100.0%

注）登録意向のない人、登録できない人、および意向の不明の人は除いてある。

(3) 腎臓バンク登録時の家族の同意の必要性に対する態度

登録の際に家族の同意が必要だとする人の割合は、登録意向者（65.7%）の方が既登録者（52.6%）よりも大きい。一方、同意が不必要だとする人の割合は、逆に、既登録者（39.8%）において、登録意向者（20.4%）よりも大きい。（表5-3）

表5-3 腎臓バンク登録時の家族の同意の必要性に対する態度

	腎臓バンク登録時の家族の同意の必要性に対する態度			計
	必要だと思う	不必要である	わからない	
登録者（既登録者）	393 52.6% 73.5%	297 39.8% 87.1%	57 7.6% 65.5%	747 100.0% 77.6%
未登録者（登録意向者）	142 65.7% 26.5%	44 20.4% 12.9%	30 13.9% 34.5%	216 100.0% 22.4%
計	535 55.6%	341 35.4%	87 9.0%	963 100.0%

注）登録意向のない人、登録できない人、および意向の不明の人は除いてある。

(4) 腎臓バンクへの登録意向の理由

登録・登録意向の理由の第1位は、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」(56.2%)であり、第2位は、「困っている人を助けるのは当然のことなので」(48.3%)、そして第3位は、「何か社会的な貢献がしたかった（したい）ので」(44.9%)である。これらの順位は、既登録者、登録意向者の両群で違わない。（表5-4）

表5-4 腎臓バンクの登録・登録意向理由

	腎臓バンクへの登録・登録意向の理由				
	何か社会的貢献 したかった(し たい)ので	自分のまわりに腎 臓機能障害のある 人がいて、その苦 しみを知っている から	友人・知人に頼 まれて	会社・学校・所 属団体などの勸 めがあったので	友人・知人など が登録した(す る)ので
登録者 (既登録者)	352 18.5% 48.3% 83.8%	225 11.9% 30.9% 85.2%	20 1.1% 2.7% 100.0%	22 1.2% 3.0% 91.7%	27 1.4% 3.7% 96.4%
未登録者 (登録意向者)	68 17.2% 32.9% 16.2%	39 9.9% 18.8% 14.8%	0 0.0% 0.0% 0.0%	2 0.5% 1.0% 8.3%	1 0.3% 0.5% 3.6%
計	420 18.3% 44.9% 100.0%	264 11.5% 28.2% 100.0%	20 0.9% 2.1% 100.0%	24 1.0% 2.6% 100.0%	28 1.2% 3.0% 100.0%

腎臓バンクへの登録・登録意向の理由					
困っている人を 助けるのは当然 のことなので	何となく良いこ とだと思って	腎臓バンクに興 味をもったので	登録することによ り腎臓バンクに関 係する医師などと つながりができ ると思ったので	職業上何らかの 関係があるので	臓器移植・提供 の必要性・重要 性を認識して
353 18.6% 48.4% 78.1%	139 7.3% 19.1% 76.4%	103 5.4% 14.1% 91.2%	3 0.2% 0.4% 100.0%	79 4.2% 10.8% 90.8%	426 22.4% 58.4% 81.0%
99 25.1% 47.8% 21.9%	43 10.9% 20.8% 23.6%	10 2.5% 4.8% 8.8%	0 0.0% 0.0% 0.0%	8 2.0% 3.9% 9.2%	100 25.3% 48.3% 19.0%
452 19.7% 48.3% 100.0%	182 7.9% 19.4% 100.0%	113 4.9% 12.1% 100.0%	3 0.1% 0.3% 100.0%	87 3.8% 9.3% 100.0%	526 22.9% 56.2% 100.0%

腎臓バンクへの登録・登録意向の理由			計	
社会に対する義 務感から	もし実際に提供し た場合何らかのお 返しが期待できる かもしれないので	そ の 他		
94 5.0% 12.9% 87.9%	4 0.2% 0.5% 66.7%	51 2.7% 7.0% 83.6%	1898 100.0%	729 100.0%
13 3.3% 6.3% 12.1%	2 0.5% 1.0% 33.3%	10 2.5% 4.8% 16.4%	395 17.2%	207 22.1%
107 4.7% 11.4% 100.0%	6 0.3% 0.6% 100.0%	61 2.7% 6.5% 100.0%	2293 100.0%	936 100.0%

注) 登録意向のない人、登録できない人、および意向の不明の人は除いてある。

(5) 登録前の不安・恐怖の経験

登録前に不安や恐怖を抱いている(抱いていた)人の割合は、登録意向者(73.1%)の方が、既登録者(24.3%)よりも有意に大きい。すなわち、意志を持ちながら未だ登録していない人の多くは、登録に関して何らかの不安や恐怖を抱いている。(表5-5)

表 5-5 登録前の不安・恐怖の経験

	登録前の不安・恐怖の経験		計
	感じた (感じている)	感じなかった (感じていない)	
登録者 (既登録者)	182 24.3% 54.5%	566 75.7% 91.0%	748 100.0% 78.2%
未登録者 (登録意向者)	152 73.1% 45.5%	56 26.9% 9.0%	208 100.0% 21.8%
計	334 34.9%	622 65.1%	956 100.0%

注) 登録意向のない人，登録できない人，および意向の不明の人は除いてある。

(6) 登録への不安・恐怖の内容

不安の内容としては，第1位に「臓器移植・提供に対する漠然とした不安・恐怖」(64.5%)，第2位に「自分の“死”を意識することによる不安・恐怖」(34.3%)，そして第3位に「死後，遺体が傷つけられることに対する不安」(26.2%)が上げられている。これらの順位は，既登録者及び登録意向者の両群で違わない。ほぼ半数余り(57.8%)の既登録者は登録前に漠然とした不安・恐怖を感じていたが，4人に3人(72.4%)の登録意向者はこの不安・恐怖を感じている。(表5-6)

表 5-6 登録への不安・恐怖の内容

	登録への不安・恐怖の内容				
	臓器移植・提供 に対する漠然と した不安・恐怖	自分の死を意識 することによる 不安・恐怖	死後，遺体が傷 つけられること に対する不安	家族の反対に対 する不安	生きているうちに 臓器の提供を求め られるのではない かという不安
登録者 (既登録者)	104 34.6% 57.8% 48.6%	67 22.3% 37.2% 58.8%	50 16.6% 27.8% 57.5%	32 10.6% 17.8% 56.1%	30 10.0% 16.7% 54.5%
未登録者 (登録意向者)	110 44.4% 72.4% 51.4%	47 19.0% 30.9% 41.2%	37 14.9% 24.3% 42.5%	25 10.1% 16.4% 43.9%	25 10.1% 16.4% 45.5%
計	214 39.0% 64.5% 100.0%	114 20.8% 34.3% 100.0%	87 15.8% 26.2% 100.0%	57 10.4% 17.2% 100.0%	55 10.0% 16.6% 100.0%

その他	計	
18 6.0% 10.0% 81.8%	301 100.0% 54.8%	180 100.0% 54.2%
4 1.6% 2.6% 18.2%	248 100.0% 45.2%	152 100.0% 45.8%
22 4.0% 6.6% 100.0%	549 100.0% 100.0%	332 100.0% 100.0%

注) 登録意向のない人，登録できない人，および意向の不明な人は除いてある。

(7) 腎臓バンクへの登録の拒否・不可能理由

腎臓バンクへ「登録したくない」あるいは、「登録できない」理由の第1位は、「遺体を傷つけられたくないので」(49.2%)である。さらに第2位に「何となく不安だから」(33.7%)、そして第3位に「健康上の点から」(17.5%)が挙げられている。第1位、第2位の理由は登録意向者や既登録者が感じている不安や恐怖の中にも共通して見られるものである。(表5-7)

表5-7 腎臓バンクへの登録の拒否・不可能理由

		腎臓バンクへの登録の拒否・不可能理由									
		遺体を傷つけられたくないので		何となく不安だから		いたそうなので		健康上の点から		宗教上の点から	
登録拒否者・未登録者	登録者	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	未登録者	121 26.4%	49.2% 100.0%	83 18.1%	33.7% 100.0%	13 2.8%	5.3% 100.0%	43 9.4%	17.5% 100.0%	18 3.9%	7.3% 100.0%
	計	121 26.4%	49.2% 100.0%	83 18.1%	33.7% 100.0%	13 2.8%	5.3% 100.0%	43 9.4%	17.5% 100.0%	18 3.9%	7.3% 100.0%

腎臓バンクへの登録の拒否・不可能理由											
他の人が登録するので		家族の反対がある		手続が面倒だから		将来自分の家族が臓器移植を必要とするかもしれないので		自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うので		もうすぐ登録年齢制限の55才になり登録しても意味がないので	
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1 0.2%	0.4% 100.0%	28 6.1%	11.4% 100.0%	9 2.0%	3.7% 100.0%	34 7.4%	13.8% 100.0%	30 6.6%	12.2% 100.0%	7 1.5%	2.8% 100.0%
1 0.2%	0.4% 100.0%	28 6.1%	11.4% 100.0%	9 2.0%	3.7% 100.0%	34 7.4%	13.8% 100.0%	30 6.6%	12.2% 100.0%	7 1.5%	2.8% 100.0%

腎臓バンクへの登録の拒否・不可能理由					計	
縁起が悪いので	葬式に手間取りそうなので	興味がないので	その他			
0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
13 2.8%	12 2.6%	21 4.6%	25 5.5%	458 100.0%	246 100.0%	
13 2.8%	12 2.6%	21 4.6%	25 5.5%	458 100.0%	246 100.0%	

## 6 腎臓バンクへの登録の推奨

### (1) 腎臓バンクへの登録の推奨

登録者の中で、半数以上の人（57.2%）が、他の人にバンクへの登録を勧めている。しかし未登録者で推奨した人は、738人のうちのただの4人（0.5%）である。（表6-1）

表6-1 腎臓バンクへの登録の推奨

		腎臓バンクへの登録の推奨		計
		した	しない	
調査対象者	登録者	423 57.2% 99.1%	317 42.8% 30.2%	740 100.0% 50.1%
	未登録者	4 0.5% 0.9%	734 99.5% 69.8%	738 100.0% 49.9%
計		427 28.9%	1051 71.1%	1478 100.0%

### (2) 腎臓バンクへの登録の推奨相手

腎臓バンクへの登録を勧めた相手として、配偶者・親・兄弟・姉妹・子供等を総じた家族が最も多く、これに次いで友人，知人（43.2%）が多く上げられている。（表6-2）

表6-2 腎臓バンクへの登録の推奨相手

		腎臓バンクへの登録の推奨相手									
		配偶者		親		兄弟・姉妹		家族・子供		親 戚	
登録推奨者	登録者	111 20.1% 99.1%	26.6% 99.1%	23 4.2% 100.0%	5.5% 100.0%	40 7.2% 100.0%	9.6% 100.0%	120 21.7% 100.0%	28.8% 100.0%	32 5.8% 100.0%	7.7% 100.0%
	未登録者	1 33.3% 0.9%	25.0% 0.9%	0 0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%
計		112 20.2% 100.0%	26.6% 100.0%	23 4.1% 100.0%	5.5% 100.0%	40 7.2% 100.0%	9.5% 100.0%	120 21.6% 100.0%	28.5% 100.0%	32 5.8% 100.0%	7.6% 100.0%

腎臓バンクへの登録の推奨相手					計	
友人・知人	近所の人	職場・学校の人	所属団体の人	その他		
180 32.6% 98.9%	7 1.3% 100.0%	31 5.6% 100.0%	2 0.4% 100.0%	6 1.1% 100.0%	552 100.0% 99.5%	417 100.0% 99.0%
2 66.7% 1.1%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	3 100.0% 0.5%	4 100.0% 1.0%
182 32.8% 100.0%	7 1.3% 100.0%	31 5.6% 100.0%	2 0.4% 100.0%	6 1.1% 100.0%	555 100.0% 100.0%	421 100.0% 100.0%

(3) 腎臓バンクへの登録の推奨方法についての意見

バンクへの登録を促進させる方法として上げられた意見では、「教育を通して登録の重要性・必要性を認識させる」(61.4%) が最も多い。次いで「もっと大掛りで長期間のキャンペーンをマスコミを通して実施する」(47.7%)、そして「ポスター・チラシなどでもっとPRする」(44.6%) が上げられている。また登録者では、「登録の受付場所をもっと増やす」(26.5%) というより具体的な意見も多く見られる。(表6-3)

表6-3 腎臓バンクへの登録の推奨方法についての意見

		腎臓バンクへの登録の推奨方法についての意見				
		ポスター・チラシなどでもっとPRする	登録の受付場所をもっと増やす	何らかの報酬を用意する	電話・訪問などによる直接的な呼掛けを増やす	教育を通して登録の重要性・必要性を認識させる
調査対象者	登録者	381 21.8% 51.6% 58.0%	269 15.4% 36.4% 68.8%	28 1.6% 3.8% 36.4%	26 1.5% 3.5% 70.3%	553 31.7% 74.9% 61.1%
	未登録者	276 21.8% 37.6% 42.0%	122 9.6% 16.6% 31.2%	49 3.9% 6.7% 63.6%	11 0.9% 1.5% 29.7%	352 27.8% 47.9% 38.9%
	計	657 21.8% 44.6% 100.0%	391 13.0% 26.5% 100.0%	77 2.6% 5.2% 100.0%	37 1.2% 2.5% 100.0%	905 30.1% 61.4% 100.0%

腎臓バンクへの登録の推奨方法についての意見				計	
もっと大掛りで長期間のキャンペーンをマスコミを通して実施する	興味がないので	わからない	その他		
433 24.8% 58.7% 61.7%	1 0.1% 0.1% 2.0%	13 0.7% 1.8% 9.6%	40 2.3% 5.4% 72.7%	1744 100.0% 58.0%	738 100.0% 50.1%
269 21.3% 36.6% 38.3%	48 3.8% 6.5% 98.0%	123 9.7% 16.7% 90.4%	15 1.2% 2.0% 27.3%	1265 100.0% 42.0%	735 100.0% 49.9%
702 23.3% 47.7% 100.0%	49 1.6% 3.3% 100.0%	136 4.5% 9.2% 100.0%	55 1.8% 3.7% 100.0%	3009 100.0% 100.0%	1473 100.0% 100.0%

7 臓器移植・提供に関する個人的背景と提供についての他者からの、また他者への働きかけ

(1) 臓器機能の障害の有無

登録者の36.1%には、周囲に腎臓病あるいは臓器機能に障害のある人がいる。それに比して未登録者では、周囲に障害を持った人がいる人の割合は、17.8%と小さい。(表7-1)

表7-1 臓器機能の障害者の有無

		臓器機能の障害者の有無		計
		いる	いない	
調査対象者	登録者	269 36.1% 66.3%	476 63.9% 42.9%	745 100.0% 49.1%
	未登録者	137 17.8% 33.7%	634 82.2% 57.1%	771 100.0% 50.9%
計		406 26.8%	1110 73.2%	1516 100.0%

(2) 臓器機能障害者との間柄

障害を持った人との間柄は、友人・知人が最も多く（登録者40.4％，未登録者40.7％），これに次いで，登録者では，家族（29.2％），親戚（18.4％）が多い。他方未登録者では，第2位に親戚（19.3％），そして第3位に職場の人（16.3％）が多い。登録者と未登録者とを比較すると，登録者の方が相手との間柄がより一層身近である。（表7-2）

表7-2 臓器機能障害者との間柄

		臓器機能障害者との間柄				
		自分自身	家族	親戚	友人・知人	近所の人
臓器機能障害者	登録者	4 1.2% 1.5% 33.3%	78 23.1% 29.2% 80.4%	49 14.5% 18.4% 65.3%	108 32.0% 40.4% 66.3%	39 11.5% 14.6% 67.2%
	未登録者	8 5.0% 5.9% 66.7%	19 11.9% 14.1% 19.6%	26 16.4% 19.3% 34.7%	55 34.6% 40.7% 33.7%	19 11.9% 14.1% 32.8%
計		12 2.4% 3.0% 100.0%	97 19.5% 24.1% 100.0%	75 15.1% 18.7% 100.0%	163 32.8% 40.5% 100.0%	58 11.7% 14.4% 100.0%

臓器機能障害者との間柄				計	
職場の人	学校の人	所属団体の人	その他		
31 9.2% 11.6% 58.5%	4 1.2% 1.5% 57.1%	9 2.7% 3.4% 75.0%	16 4.7% 6.0% 80.0%	338 100.0% 68.0%	267 100.0% 66.4%
22 13.8% 16.3% 41.5%	3 1.9% 2.2% 42.9%	3 1.9% 2.2% 25.0%	4 2.5% 3.0% 20.0%	159 100.0% 32.0%	135 100.0% 33.6%
53 10.7% 13.2% 100.0%	7 1.4% 1.7% 100.0%	12 2.4% 3.0% 100.0%	20 4.0% 5.0% 100.0%	497 100.0% 100.0%	402 100.0% 100.0%

(3) 臓器バンク登録者の有無

自分の身近に既に臓器バンクに登録している人がいるとする人は，登録者では59.3％を占めているのに比して，未登録者では5.2％と1割にも満たない。登録に対する他者の影響が暗示される。（表7-3）

表7-3 臓器バンク登録者の有無

		臓器バンク登録者の有無		計
		いる	いない	
調査対象者	登録者	439 59.3% 91.6%	301 40.7% 29.1%	740 100.0% 48.9%
	未登録者	40 5.2% 8.4%	732 94.8% 70.9%	772 100.0% 51.1%
計		479 31.7%	1033 68.3%	1512 100.0%



(4) 臓器バンク登録者との間柄

臓器バンクに登録している身近な人との間柄は、「家族」が最も多く（62.0%）、次いで友人・知人（32.4%）、職場の人（15.3%）が多く見られる。登録者では家族（66.8%）が圧倒的に多いのに比して、未登録者では比較的友人・知人（38.5%）や職場の人（23.1%）が多い。これは、登録に対する家族の影響の大きいことを暗示している。（表7-4）

表7-4 臓器バンク登録者との間柄

		臓器バンク登録者との間柄									
		家 族		親 戚		友人・知人	近所の人	職場の人			
登録者の いる者	登録者	292 48.5%	66.8% 99.0%	47 7.8%	10.8% 82.5%	139 23.1%	31.8% 90.3%	23 3.8%	5.3% 85.2%	64 10.6%	14.6% 87.7%
	未登録者	3 6.8%	7.7% 1.0%	10 22.7%	25.6% 17.5%	15 34.1%	38.5% 9.7%	4 9.1%	10.3% 14.8%	9 20.5%	23.1% 12.3%
計		295 45.7%	62.0% 100.0%	57 8.8%	12.0% 100.0%	154 23.8%	32.4% 100.0%	27 4.2%	5.7% 100.0%	73 11.3%	15.3% 100.0%

臓器バンク登録者との間柄			計	
学校の人	所属団体の人	その他		
8 1.3%	23 3.8%	6 1.0%	602 100.0%	437 100.0%
1.8% 100.0%	5.3% 92.0%	1.4% 85.7%	93.2%	91.8%
0 0.0%	2 4.5%	1 2.3%	44 100.0%	39 100.0%
0.0% 0.0%	5.1% 8.0%	2.6% 14.3%	6.8%	8.2%
8 1.2%	25 3.9%	7 1.1%	646 100.0%	476 100.0%
1.7% 100.0%	5.3% 100.0%	1.5% 100.0%	100.0%	100.0%

(5) 臓器バンク登録の被勧誘経験

登録者で他者からバンクへの登録を勧められたことのある人の割合は26.2%であるが、未登録者では0.5%と極めて少ない。登録に際して他者からの勧誘が影響しているようである。

(表7-5)

表7-5 臓器バンクへの登録の被勧誘経験

		臓器バンクへの登録の被勧誘経験		計
		勧められた	勧められなかった	
調査対象者	登録者	191 26.2%	539 73.8%	730 100.0%
	未登録者	4 0.5%	761 99.5%	765 100.0%
計		195 13.0%	1300 87.0%	1495 100.0%

(6) 登録勧誘者との間柄

特に登録者について登録を勧められた相手を見ると、家族（61.4%）が最も多く、次いで友人・知人（21.7%）、そして職場の人（11.6%）が多い。（表7-6）

表7-6 登録勧誘者との間柄

		登録勧誘者との間柄														
		家族		親 戚		友人・知人		近所の人		職場の人						
登録被勧誘者	登録者	116	10	41	2	22	55.8%	61.4%	4.8%	5.3%	19.7%	21.7%	1.0%	1.1%	10.6%	11.6%
		99.1%	90.9%	97.6%	100.0%	95.7%										
未登録者		1	1	1	0	1	16.7%	25.0%	6.7%	25.0%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%
		0.9%	9.1%	2.4%	0.0%	4.3%										
計		117	11	42	2	23	54.7%	60.6%	5.1%	5.7%	19.6%	21.8%	0.9%	1.0%	10.7%	11.9%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%										

登録勧誘者との間柄			計	
学校の人	所属団体の人	その他		
9	4	4	208	189
4.3%	1.9%	1.9%	100.0%	100.0%
4.8%	2.1%	2.1%	97.2%	97.9%
100.0%	66.7%	100.0%		
0	2	0	6	4
0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	100.0%
0.0%	50.4%	0.0%	2.8%	2.1%
0.0%	33.3%	0.0%		
9	6	4	214	193
4.2%	2.8%	1.9%	100.0%	100.0%
4.7%	3.1%	2.1%	100.0%	100.0%
100.0%	100.0%	100.0%		

(7) 登録への勧誘の効果

登録者の中で登録への勧誘を受けた人のほとんど（95.7%）が、その勧誘によって「登録しようと思った」と回答している。勧誘の効果があることは明らかである。（表7-7）

表7-7 登録への勧誘の効果

		登録への勧誘の効果			計
		登録しようと思った	登録しようと思わなかった	どちらともいえない	
登録被勧誘者	登録者	178	2	6	186
		95.7%	1.1%	3.2%	100.0%
		98.9%	100.0%	75.0%	97.9%
未登録者		2	0	2	4
		50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
		1.1%	0.0%	25.0%	2.1%
計		180	2	8	190
		94.7%	1.1%	4.2%	100.0%

(8) 臓器バンクについての話し合いの経験

登録者の8割近く(79.0%)は身近な人たちと臓器バンクについて何らかの話し合いをした経験を持っている。これに比して、未登録者のそれは18.4%と2割にも満たない。(表7-8)

表7-8 臓器バンクについての話し合いの経験

		臓器バンクについての話し合いの経験		計
		ある	ない	
調査対象者	登録者	586 79.0%	156 21.0%	742 100.0%
	未登録者	142 18.4%	629 81.6%	771 100.0%
計		728 48.1%	785 51.9%	1513 100.0%

(9) 話し合いの相手

臓器バンクのことについて話し合った相手は、第1位に「家族」(83.0%)、第2位に「友人・知人」(46.6%)、そして第3位に「職場の人」(21.4%)であった。これは登録者と未登録者でほとんど変わらないが、登録者では「家族」(86.1%)が、未登録者では「職場の人」(23.2%)がいくぶん多く見られるようである。(表7-9)

表7-9 話し合いの相手

		話し合いの相手									
		家族		親戚		友人・知人		近所の人		職場の人	
話し合いの経験あり	登録者	502 44.2%	86.1%	125 11.0%	21.4%	280 24.6%	48.0%	51 4.5%	8.7%	122 10.7%	20.9%
	未登録者	100 45.5%	70.4%	13 5.9%	9.2%	58 26.4%	40.8%	7 3.2%	4.9%	33 15.0%	23.2%
計		602 44.4%	83.0%	138 10.2%	19.0%	338 24.9%	46.6%	58 4.3%	8.0%	155 11.4%	21.4%

話し合いの相手			計	
学校の人	所属団体の人	その他		
14 1.2%	25 2.2%	17 1.5%	1136 100.0%	583 100.0%
2.4%	4.3%	2.9%	83.8%	80.4%
82.4%	80.6%	100.0%		
3 1.4%	6 2.7%	0 0.0%	220 100.0%	142 100.0%
2.1%	4.2%	0.0%	16.2%	19.6%
17.6%	19.4%	0.0%		
17 1.3%	31 2.3%	17 1.3%	1356 100.0%	725 100.0%
2.3%	4.3%	2.3%	100.0%	100.0%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(10) 話し合いの影響

バンクについての話し合いが自分の考えに影響したという人は、登録者では4割程(40.2%)見られ、バンクに対する考えに少なからず影響を与えたようである。未登録者のそれは、26.2%にとどまっており、むしろ「どちらとも言えない」が4割を越えて最も多い。(表7-10)

表 7-10 話し合いの影響

		話し合いの影響			計
		影響した	影響しなかった	どちらともいえない	
話し合い経験者	登録者	232 40.5% 86.2%	169 29.5% 80.5%	172 30.0% 73.2%	573 100.0% 80.3%
	未登録者	37 26.2% 13.8%	41 29.1% 19.5%	63 44.7% 26.8%	141 100.0% 19.7%
計		269 37.7%	210 29.4%	235 32.9%	714 100.0%

8 腎臓以外の臓器の移植・提供について

(1) 腎臓バンク以外の臓器バンクの認知

腎臓バンク登録者の認知水準は未登録者のそれより高く、他のバンクを知らない者の割合が前者で3.1%であるのに比して、後者では22.8%となっている。種々のバンクのうちでアイ（角膜）バンクの認知水準が最も高く、腎臓バンク登録者のほぼ全員（96.4%）が、また未登録者でも4人に3人が知っている（76.3%）。脳下垂体バンクの認知水準はかなり低く、腎臓バンク登録者でさえ30.1%の水準であり、未登録者では10.2%と非常に低い。（表 8-1）

表 8-1 腎臓バンク以外の臓器バンクの認知

		腎臓バンク以外の臓器バンクの認知				計	
		アイ（角膜）バンクを知っている	脳下垂体バンクを知っている	その他のバンクを知っている	知らない		
調査対象者	腎臓バンク登録者	720 65.5% 94.6% 55.5%	225 20.5% 30.1% 74.3%	131 11.9% 17.5% 78.0%	23 2.1% 3.1% 11.6%	1099 100.0% 100.0% 55.7%	747 100.0% 100.0% 49.3%
	腎臓バンク未登録者	585 66.9% 76.3% 44.8%	78 8.9% 10.2% 25.7%	37 4.2% 4.8% 22.0%	175 20.0% 22.8% 88.4%	875 100.0% 100.0% 44.3%	767 100.0% 100.0% 50.7%
計		1305 66.1% 86.2% 100.0%	303 15.3% 28.0% 100.0%	168 8.5% 11.1% 100.0%	198 10.0% 13.1% 100.0%	1974 100.0% 100.0% 100.0%	1514 100.0% 100.0% 100.0%

(2) アイ（角膜）バンクへの登録意向

腎臓バンク登録者の32.8%は、既にアイ（角膜）バンクにも登録しており、登録意向のある人は57.4%にも及んでいる。他方、腎臓バンク未登録者では、アイ（角膜）バンクに既に登録している人が0.2%（1人）にすぎず、登録意向のある人も33.1%にとどまっている。また、登録を拒否する人（25.6%）や意向の不明な人（36.5%）もかなりいる。（表 8-2）

表 8-2 アイ（角膜）バンクへの登録意向

		アイ（角膜）バンクへの登録意向						計
		もうすでに登録している	登録しようと思う	できれば登録しようと思う	登録したくない	登録できない	わからない	
アイバンク認知者	腎臓バンク登録者	235 32.8% 99.6%	214 29.8% 89.2%	198 27.6% 54.4%	20 2.8% 11.8%	9 1.3% 25.0%	41 5.7% 16.2%	717 100.0% 55.2%
	腎臓バンク未登録者	1 0.2% 0.4%	26 4.5% 10.8%	166 28.6% 45.6%	149 25.6% 88.2%	27 4.6% 75.0%	212 36.5% 83.8%	581 100.0% 44.8%
計		236 18.2%	240 18.5%	364 28.0%	169 13.0%	36 2.8%	253 19.5%	1298 100.0%

(3) アイ（角膜）バンクへの登録あるいは登録意向の理由

アイ（角膜）バンクに登録した、あるいは登録しようと思う理由の第1位は、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」（54.9%）であり、第2位は、「困っている人を助けるのは当然のことなので」（51.1%）、そして第3位は、「何か社会的な貢献がしたかった（したい）ので」（47.2%）である。この順位は、腎臓バンクの場合と同じである。

腎臓バンク登録者と未登録者の間に大差はないが、前者では後者に較べて、「重要性・必要性認識」、「社会的貢献がしたい」、「社会に対する義務感」などが一層理由になるようである。

表 8-3 アイ（角膜）バンクへの登録あるいは登録意向の理由

		アイ（角膜）バンクへの登録あるいは登録意向の理由				
		何か社会的な貢献がしたかった（したい）ので	自分のまわりに臓器機能に障害をもつ人がいてその苦しみを知っているから	友人・知人に頼まれて	会社・学校・所属団体などの勧めがあった（ある）ので	友人・知人などが登録した（する）ので
登録アイ 登録者イ 意あバ 向る 者ハ登 録者	腎臓バン ク登録者	329 21.5% 51.2% 83.7%	103 6.7% 16.0% 83.1%	3 0.2% 0.5% 100.0%	3 0.2% 0.5% 75.0%	11 0.7% 1.7% 100.0%
	腎臓バン ク未登録 者	64 17.5% 33.7% 16.3%	21 5.7% 11.1% 16.9%	0 0.0% 0.0% 0.0%	1 0.3% 0.5% 25.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
計		393 20.7% 47.2% 100.0%	124 6.5% 14.9% 100.0%	3 0.2% 0.4% 100.0%	4 0.2% 0.5% 100.0%	11 0.6% 1.3% 100.0%

アイ（角膜）バンクへの登録あるいは登録意向の理由					
困っている人を助けるのは当然のことなので	何となく良いことだと思って	角膜移植に興味を持ったので	登録することにより、バンクに関係する医師などと思つて	職業上何らかの関係があるので	臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
321 21.0% 50.0% 75.5%	104 6.8% 16.2% 71.7%	67 4.4% 10.4% 91.8%	2 0.1% 0.3% 66.7%	48 3.1% 7.5% 87.3%	362 23.7% 56.4% 79.2%
104 28.4% 54.7% 24.5%	41 11.2% 21.6% 28.3%	6 1.6% 3.2% 8.2%	1 0.3% 0.5% 33.3%	7 1.9% 3.7% 12.7%	95 26.0% 50.0% 20.8%
425 22.4% 51.1% 100.0%	145 7.7% 17.4% 100.0%	73 3.9% 8.8% 100.0%	3 0.2% 0.4% 100.0%	55 2.9% 6.6% 100.0%	457 24.1% 54.9% 100.0%

社会に対する義務感から	もし実際に提供した場合何らかの お返しを期待できる かもしれないので		そ の 他	計	
97 6.3% 15.1% 89.0%	5 0.3% 0.8% 83.3%	74 4.8% 11.5% 85.1%	1529 100.0% 80.7%	642 100.0% 77.2%	
12 3.3% 6.3% 11.0%	1 0.3% 0.5% 16.7%	13 3.6% 6.8% 14.9%	366 100.0% 19.3%	190 100.0% 22.8%	
109 5.8% 13.1% 100.0%	6 0.3% 0.7% 100.0%	87 4.6% 10.5% 100.0%	1895 100.0% 100.0%	832 100.0% 100.0%	

注) 登録意向のない人、登録できない人、および意向の不明の人は除いてある。

逆に、「助けるのは当然」とか「何となく良いことだから」という理由は、後者において一層認められる。（表 8-3）

(4) アイ（角膜）バンクへの登録の拒否・不可能理由

アイ（角膜）バンクに登録したくない、あるいは登録できない理由の第1位は、「遺体を傷つけられたくないので」（47.0%）であり、第2位に、「何となく不安なので」（32.2%）が挙げられている。これは、腎臓バンクの場合と同じである。

腎臓バンク登録者と未登録者とは理由がいくらか相違している。前者がアイ（角膜）バンクへの登録を拒否したり、それが不可能だと思う理由は、「その他」（50.0%）や「家族の反対」（23.1%）であり、「遺体を傷つけられたくないので」（15.4%）はほとんど理由になっていない。これと対照的に、後者では「遺体を傷つけられたくないので」（51.7%）が非常に大きな理由となっている。（表 8-4）

表 8-4 アイ（角膜）バンクへの登録の拒否・不可能理由

		アイ（角膜）バンクへの登録の拒否・不可能理由									
		遺体を傷つけられたくないので		何となく不安なので		いたそうなので		健康上の点から		宗教上の点から	
登録拒否者	腎臓バンク登録者	4 10.3%	15.4% 4.2%	8 20.5%	30.8% 12.3%	0 0.0%	0.0% 0.0%	4 10.3%	15.4% 11.8%	0 0.0%	0.0% 0.0%
	腎臓バンク未登録者	91 26.5%	51.7% 95.8%	57 16.6%	32.4% 87.7%	11 3.2%	6.3% 100.0%	30 8.7%	17.0% 88.2%	12 3.5%	6.8% 100.0%
計		95 24.8%	47.0% 100.0%	65 17.0%	32.2% 100.0%	11 2.9%	5.4% 100.0%	34 8.9%	16.8% 100.0%	12 3.1%	5.9% 100.0%

アイ（角膜）バンクへの登録の拒否・不可能理由											
他の人が登録するので		家族の反対があるので		手続きが面倒だから		自分の死を待たれているようなので		将来自分の家族が移植を必要とするかもしれないのでは		自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うのでは	
0 0.0%	0.0% 0.0%	6 15.4%	23.1% 21.4%	0 0.0%	0.0% 0.0%	1 2.6%	3.8% 3.8%	0 0.0%	0.0% 0.0%	0 0.0%	0.0% 0.0%
1 0.3%	0.6% 100.0%	22 6.4%	12.5% 78.6%	11 3.2%	6.3% 100.0%	25 7.3%	14.2% 96.2%	23 6.7%	13.1% 100.0%	23 6.7%	13.1% 100.0%
1 0.3%	0.6% 100.0%	28 7.3%	13.9% 100.0%	11 2.9%	5.4% 100.0%	26 6.8%	12.9% 100.0%	23 6.0%	11.4% 100.0%	23 6.0%	11.4% 100.0%

アイ（角膜）バンクへの登録の拒否・不可能理由				計	
葬式に手間どりそうだから	縁起が悪いので	興味が無いので	その他		
1 2.6%	0 0.0%	2 5.1%	13 33.3%	39 100.0%	26 100.0%
3.8% 12.5%	0.0% 0.0%	7.7% 20.0%	50.0% 48.1%	10.2% 10.2%	12.9% 12.9%
7 2.0%	9 2.6%	8 2.3%	14 4.1%	344 100.0%	176 100.0%
4.0% 87.5%	5.1% 100.0%	4.5% 80.0%	8.0% 51.9%	89.8% 89.8%	87.1% 87.1%
8 2.1%	9 2.3%	10 2.6%	27 7.0%	383 100.0%	202 100.0%
4.0% 100.0%	4.5% 100.0%	5.0% 100.0%	13.4% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%

(5) アイ（角膜）バンクについての意見

アイ（角膜）バンクについての意見の第1位は、「苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある」（79.9%）というバンクに対する高い評価である。これに次いで第2位は、「マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をPRすべきだ」（58.3%）であり、第3位に「バンクをもっと全国的に増やすべきだ」（37.8%）、そして第4位に「バンクは、国家レベルで行うべきだ」（36.6%）が挙げられている。これらは、バンクの拡充発展のための具体的な対策を要求するものである。さらに、バンクを社会福祉の一環と考えて、「バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある」という意見（28.2%、第5位）も挙げられている。また、「患者の家族が率先して登録すべきだ」という、この問題に直接関わっている患者の家族による積極的登録を望む人が18.8%もいる。つまり、患者の苦しみを一層理解でき、実情を知っている患者の家族が、他の人々の善意に頼るだけではなく、自らが“登録”という実際の行動をすべきだという考えであろう。なお、「バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない」という、バンクに対する否定的意見を持つ人は、2.0%と少ない。

腎臓バンク登録者と未登録者とを比較すると、前者は後者よりも一層具体的対策を求める意

表 8-5 アイ（角膜）バンクについての意見

		アイ（角膜）バンクについての意見									
		バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある		バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある		バンクをもっと全国的に増やすべきだ		マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ		バンクは、国家レベルで行うべきだ	
アイ 認 知 者	腎臓バンク登録者	599 26.0% 84.8% 58.6%	239 10.4% 33.9% 66.0%	377 16.4% 53.4% 77.7%	506 22.0% 71.7% 67.6%	322 14.0% 45.6% 68.5%					
	腎臓バンク未登録者	424 34.6% 73.5% 41.4%	123 10.0% 21.3% 34.0%	108 8.8% 18.7% 22.3%	242 19.8% 41.9% 32.4%	148 12.1% 25.6% 31.5%					
計		1023 29.0% 79.7% 100.0%	362 10.3% 28.2% 100.0%	485 13.8% 37.8% 100.0%	748 21.2% 58.3% 100.0%	470 13.3% 36.6% 100.0%					

アイ（角膜）バンクについての意見						計			
バンクは、病院レベルで行うべきだ		バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない		患者の家族が率先して登録すべきだ		バンクには興味がない		その他	
67 2.9% 9.5% 67.0%	7 0.3% 1.0% 26.9%	158 6.9% 22.4% 65.6%	5 0.2% 0.7% 100.0%	22 1.0% 3.1% 71.0%	2302 100.0% 65.3%	706 100.0% 55.0%			
33 2.7% 5.7% 33.0%	19 1.6% 3.3% 73.1%	83 6.8% 14.4% 34.4%	35 2.9% 6.1% 87.5%	9 0.7% 1.6% 29.0%	1224 100.0% 34.7%	577 100.0% 45.0%			
100 2.8% 7.8% 100.0%	26 0.7% 2.0% 100.0%	241 6.8% 18.8% 100.0%	40 1.1% 3.1% 100.0%	31 0.9% 2.4% 100.0%	3526 100.0% 100.0%	1283 100.0% 100.0%			

見を持っているようである。そして、「患者の家族が率先して登録すべきだ」という意見を持っている人は、前者の方が幾分多い。また、腎臓バンク登録者でも、アイ（角膜）バンクに対し、「バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない」という否定的な意見を持つ人がわずかながらおり、さらに「（アイ）バンクには興味がない」という人もいる。これは、一つのバンクに登録している人の全員が、必ず、他のバンクに対しても肯定的な意見を持っているわけでないことを意味している。（表 8-5）

(6) 脳下垂体バンクへの登録意向

腎臓バンク登録者の18%は既に脳下垂体バンクに登録しており、登録意向のある者は68.2%にも及んでいる。これに較べて腎臓バンク未登録者の場合、脳下垂体バンクに既に登録している者はなく、登録意向を持つ者は40.3%にとどまっている。また、登録を拒否する者(26.0%)や意向の不明者(31.2%)もかなりいる。（表 8-6）

表 8-6 脳下垂体バンクへの登録意向

		脳下垂体バンクへの登録意向					計	
		もうすでに登録している	登録しようと思う	できれば登録しようと思う	登録したくない	登録できない		わからない
脳下垂体 認知者	腎臓バンク登録者	39 18.0%	79 36.4%	69 31.8%	5 2.3%	2 0.9%	23 10.6%	217 100.0%
	腎臓バンク未登録者	0 0.0%	7 9.1%	24 31.2%	20 26.0%	2 2.6%	24 31.2%	77 100.0%
計		39 13.3%	86 29.3%	93 31.6%	25 8.5%	4 1.4%	47 16.0%	294 100.0%

次に、バンクへの登録意向について、腎臓、アイ（角膜）、脳下垂体の3種類のバンクを比較する。腎臓バンク登録者の中で、他のバンクにも既に登録している者の割合は、「アイ（角膜）バンク」で32.8%、「脳下垂体バンク」では18.0%である。これに対して、腎臓バンク未登録者の中で、他のバンクにも既に登録している者は、アイ（角膜）バンクに登録している1名のみである。登録意志の有る者の割合は、既に腎臓バンクに登録している者の場合の方が、そうでない未登録者の場合よりも一層大きい。またこれと反対に、「登録したくない」とか「わからない」といった登録に対して否定的、消極的な意向では、各バンクともに、腎臓バンク未登録者の割合の方が、腎臓バンク登録者のそれよりも一層大きい。このことは、いずれかのバンクに登録することによって、他のバンクに対する理解と協力が増すことを示している。（表 5-1, 表 8-2, 表 8-6）

(7) 脳下垂体バンクへの登録あるいは登録意向の理由

脳下垂体バンクに登録した、あるいは登録しようと思う理由の第1位は、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」(68.5%)であり、第2位は、「困っている人を助けることは、当然のことだから」(56.0%)、そして第3位は、「何か社会的な貢献がしたかったので」(47.7



%)である。この理由の順位は、腎臓バンクやアイ(角膜)バンクの場合と同じである。腎臓バンク登録者と未登録者の間には大きな差はないが、前者では後者に較べて、「重要性・必要性の認識」、「社会的貢献の希望」が理由になりやすく、逆に「困っている人を助けるのは当然」は後者において一層理由になりやすいようである。(表8-7)

表8-7 脳下垂体バンクへの登録あるいは登録意向の理由

		脳下垂体バンクへの登録あるいは登録意向の理由				
		何か社会的な貢献がしたかった ので	まわりに臓器機能に障害のある人がいて、その苦しみを知っている ので	友人・知人に頼まれて	会社・学校・所属団体などの勧めがあった(ある) ので	友人・知人などが提供した(する) ので
登録意向あり 者	腎臓バンク登録者	96 19.2% 51.6% 93.2%	33 6.6% 17.7% 94.3%	1 0.2% 0.5% 100.0%	2 0.4% 1.1% 100.0%	2 0.4% 1.1% 100.0%
	腎臓バンク未登録者	7 11.3% 23.3% 6.8%	2 3.2% 6.7% 5.7%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
計		103 18.3% 47.7% 100.0%	35 6.2% 16.2% 100.0%	1 0.2% 0.5% 100.0%	2 0.4% 0.9% 100.0%	2 0.4% 0.9% 100.0%

脳下垂体バンクへの登録あるいは登録意向の理由					
困っている人を助けることは、当然のことだから	何となく良いことだと思って	脳下垂体移植に興味をもったので	登録することにより、バンクに 関係する医師などつながりができると 思っている	職業上何らかの関係があるので	臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
102 20.4% 54.8% 84.3%	26 5.2% 14.0% 83.9%	23 4.6% 12.4% 95.8%	2 0.4% 1.1% 100.0%	26 5.2% 14.0% 92.9%	129 25.7% 69.4% 87.2%
19 30.6% 63.3% 15.7%	5 8.1% 16.7% 16.1%	1 1.6% 3.3% 4.2%	0 0.0% 0.0% 0.0%	2 3.2% 6.7% 7.1%	19 30.6% 63.3% 12.8%
121 21.5% 56.0% 100.0%	31 5.5% 14.4% 100.0%	24 4.3% 11.1% 100.0%	2 0.4% 0.9% 100.0%	28 5.0% 13.0% 100.0%	148 26.3% 68.5% 100.0%

脳下垂体バンクへの登録あるいは登録意向の理由			計	
社会に対する義務感から	もし実際に提供した場合何らかのお返しを期待できるかもしれないので	その他		
37 7.4% 19.9% 88.1%	3 0.6% 1.6% 75.0%	19 3.8% 10.2% 95.0%	501 100.0% 89.0%	186 100.0% 86.1%
5 8.1% 16.7% 11.9%	1 1.6% 3.3% 25.0%	1 1.6% 3.3% 5.0%	62 100.0% 11.0%	30 100.0% 13.9%
42 7.5% 19.4% 100.0%	4 0.7% 1.9% 100.0%	20 3.6% 9.3% 100.0%	563 100.0% 100.0%	216 100.0% 100.0%

(8) 脳下垂体バンクへの登録の拒否・不可能理由

脳下垂体バンクに登録したくない、あるいは登録できない理由の第1位は、「遺体を傷つけられたくないので」(39.3%)であり、第2位に、「何となく不安だから」(32.1%)が挙げられている。これは、腎臓バンクやアイ（角膜）バンクの場合と同じである。

腎臓バンク登録者と未登録者で理由はかなり相違している。前者では「その他」の特別の理由(100.0%)と、「手続きが面倒だから」(16.7%，1人)が挙げられているが、後者では、やはり、「遺体を傷つけられたくない」と「何となく不安」が主要な理由になっている。(表8-8)

表8-8 脳下垂体バンクへの登録の拒否・不可能理由

		脳下垂体バンクへの登録の拒否・不可能理由				
		遺体を傷つけられたくないので	何となく不安だから	いたそうなので	健康上の点から	宗教上の点から
・へ脳 不の下 可登垂 能録体 者 のバ ンク 拒 否	腎臓バンク登録者	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
	腎臓バンク未登録者	11 23.4% 50.0% 100.0%	9 19.1% 40.9% 100.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	3 6.4% 13.6% 100.0%	3 2.1% 4.5% 100.0%
計		11 20.4% 39.3% 100.0%	9 16.7% 23.1% 100.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%

脳下垂体バンクへの登録の拒否・不可能理由					
他の人が登録するので	家族の反対がある	手続きが面倒だから	自分の死を待たれているようなので	将来自分の家族が移植を必要とするかもしれないので	自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うので
0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	1 14.3% 16.7% 33.3%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%
1 2.2% 4.5% 100.0%	4 8.5% 18.2% 100.0%	2 4.3% 9.1% 66.7%	3 6.4% 13.6% 100.0%	1 2.1% 4.5% 100.0%	3 6.4% 13.6% 100.0%
1 1.9% 3.6% 100.0%	4 7.4% 14.3% 100.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%	1 1.9% 3.6% 100.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%

脳下垂体バンクへの登録の拒否・不可能理由				計	
葬式に手間どりそうだから	縁起が悪いので	興味が無いので	その他		
0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	6 85.7% 100.0% 85.7%	7 100.0% 13.0%	6 100.0% 21.4%
2 4.3% 9.1% 100.0%	1 2.1% 4.5% 100.0%	3 6.4% 13.6% 100.0%	1 2.1% 4.5% 100.0%	47 100.0% 87.0%	22 100.0% 78.6%
2 3.7% 7.1% 100.0%	1 1.9% 3.6% 100.0%	3 5.6% 10.7% 100.0%	7 13.0% 25.0% 100.0%	54 100.0% 100.0%	28 100.0% 100.0%

(9) 脳下垂体バンクについての意見

脳下垂体バンクについての意見の第1位は、「バンクは苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある」(80.2%) というバンクに対する高い評価である。これに次いで第2位は、「マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ」(69.1%) であり、第3位に「バンクをもっと全国的に増やすべきだ」(47.6%)、そして第4位に「バンクは、国家レベルで行うべきだ」(42.7%) が挙げられている。これらは、バンクの拡充発展のための具体的な対策を要求するものである。なお、これらの順位は、腎臓バンクやアイ（角膜）バンクの場合と同じである。

腎臓バンク登録者と未登録者とを比較すると、前者は後者よりも一層具体的な対策を要求する意見を持っているようである。（表8-9）

表8-9 脳下垂体バンクについての意見

		脳下垂体バンクについての意見				
		バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある	バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある	バンクをもっと全国的に増やすべきだ	マスコミ・教育を通してバンクの重要性・必要性をもっとPRすべきだ	バンクは、国家レベルで行うべきだ
脳下垂体 認知者	腎臓バンク登録者	176 24.4% 82.6% 76.2%	75 10.4% 35.2% 80.6%	119 16.5% 55.9% 86.9%	163 22.6% 76.5% 81.9%	101 14.0% 47.4% 82.1%
	腎臓バンク未登録者	55 31.4% 73.3% 23.8%	18 10.3% 24.0% 19.4%	18 10.3% 24.0% 13.1%	36 20.6% 48.0% 18.1%	22 12.6% 27.3% 17.9%
計		231 25.8% 80.2% 100.0%	93 10.4% 32.3% 100.0%	137 15.3% 47.6% 100.0%	199 22.2% 69.1% 100.0%	123 13.7% 42.7% 100.0%

脳下垂体バンクについての意見					
バンクは、病院レベルで行うべきだ	バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない	患者の家族が率先して登録すべきだ	バンクには興味がない	その他	計
24 3.3% 11.3% 80.0%	1 0.1% 0.5% 20.0%	50 6.9% 23.5% 82.0%	0 0.0% 0.0% 0.0%	13 1.8% 6.1% 86.7%	722 213 100.0% 100.0% 80.5% 74.0%
6 3.4% 8.0% 20.0%	4 2.3% 5.3% 80.0%	11 6.3% 14.7% 18.0%	3 1.7% 4.0% 100.0%	2 1.1% 2.7% 13.3%	175 75 100.0% 100.0% 19.5% 26.0%
30 3.3% 10.4% 100.0%	5 0.6% 1.7% 100.0%	61 6.8% 21.2% 100.0%	3 0.3% 1.0% 100.0%	15 1.7% 5.2% 100.0%	897 288 100.0% 100.0% 100.0% 100.0%

## 9 社会奉仕一般について

## (1) 社会奉仕活動についての意見

## ① 「社会奉仕活動に参加することは、人生をより豊かにする」

この意見に賛成する人は、全対象者の78.8%と多数を占めている。他方この意見に反対する人は、全体の10.6%と少ない。この意見に賛成する人の割合は、未登録者（74.2%）よりも登録者（83.5%）において一層大きい。反対者の割合は、逆に、登録者（8.2%）よりも未登録者（13.0%）においてやや大きい。（表9-1-1）

表9-1-1 「社会奉仕活動に参加することは、人生をより豊かにする」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (1)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	240 32.7% 60.5%	373 50.8% 47.9%	38 5.2% 32.5%	22 3.0% 52.4%	61 8.3% 38.9%	734 100.0% 49.2%
	未登録者	157 20.7% 39.5%	405 53.5% 52.1%	79 10.4% 67.5%	20 2.6% 47.6%	96 12.7% 61.1%	757 100.0% 50.6%
計		397 26.6%	778 52.2%	117 7.8%	42 2.8%	157 10.5%	1491 100.0%

## ② 「社会奉仕活動は暇な人だけがやれば良い」

この意見に反対する人は、全対象者の83.5%と多数を占めている。社会奉仕活動に否定的な考えを持ってこの意見に賛成している人は、全体の9.4%と少数である。この意見に反対する人の割合は、未登録者（77.2%）よりも登録者（89.9%）において一層大きい。（表9-1-2）

表9-1-2 「社会奉仕活動は暇な人だけがやれば良い」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (2)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	3 0.4% 15.8%	38 5.2% 31.7%	214 29.5% 45.9%	438 60.4% 56.9%	32 4.4% 30.2%	725 100.0% 49.0%
	未登録者	16 2.1% 84.2%	82 10.8% 68.3%	252 33.3% 54.1%	332 43.9% 43.1%	74 9.8% 69.8%	756 100.0% 51.0%
計		19 1.3%	120 8.1%	466 31.5%	770 52.0%	106 7.2%	1481 100.0%

③ 「社会奉仕活動は地域を良くすることだから、非常に意義がある」

この意見に賛成する人は、全対象者の85.8%と多数を占めている。反対の人は、全体の7.5%と少ない。この意見に賛成する人の割合は、登録者(88.0%)と未登録者(83.7%)でほとんど差がない。(表9-1-3)

表9-1-3 「社会奉仕活動は地域を良くすることだから、非常に意義がある」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (3)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	291 39.7% 58.1%	354 48.3% 45.4%	36 4.9% 41.4%	10 1.4% 38.5%	42 5.7% 42.4%	733 100.0% 49.1%
	未登録者	210 27.7% 41.9%	425 56.0% 54.6%	51 6.7% 58.6%	16 2.1% 61.5%	57 7.5% 57.6%	759 100.0% 50.9%
計		501 33.6%	779 52.2%	87 5.8%	26 1.7%	99 6.6%	1492 100.0%

④ 「社会奉仕活動は、公共的な活動だから、個人でやる必要はない」

この意見に反対する人は、全対象者の79.5%と多数を占めている。賛成者は全体の11.7%と少ない。この意見に反対の人の割合は、未登録者(72.2%)よりも登録者(87.2%)において一層大きい。(表9-1-4)

表9-1-4 「社会奉仕活動は公共的な活動だから、個人でやる必要はない」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (4)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	15 2.1% 26.8%	32 4.4% 27.4%	211 29.0% 43.6%	423 58.2% 60.8%	46 6.3% 35.4%	727 100.0% 49.0%
	未登録者	41 5.4% 73.2%	85 11.2% 72.6%	273 36.1% 56.4%	273 36.1% 39.2%	84 11.1% 64.6%	756 100.0% 51.0%
計		56 3.8%	117 7.9%	484 32.6%	696 46.9%	130 8.8%	1483 100.0%

⑤ 「社会奉仕活動は、個人個人が参加してこそ意義がある」

この意見に賛成する人は、全対象者の85.2%と多数を占めている。この意見に反対の人は、全体の9.0%と少ない。この意見に賛成する人の割合は、未登録者(81.1%)よりも登録者(89.4%)において一層大きいという傾向にある。(表9-1-5)

表9-1-5 「社会奉仕活動は、個人個人が参加してこそ意義がある」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (5)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	350 48.0% 58.8%	302 41.4% 45.1%	34 4.7% 34.7%	14 1.9% 38.9%	29 4.0% 33.7%	729 100.0% 49.1%
	未登録者	245 32.4% 41.2%	368 48.7% 54.9%	64 8.5% 65.3%	22 2.9% 61.1%	57 7.5% 66.3%	756 100.0% 50.9%
計		595 40.1%	670 45.1%	98 6.6%	36 2.4%	86 5.8%	1485 100.0%

⑥ 「社会奉仕活動は、何となく偽善的で、不快を与える」

この意見に反対する人は、全対象者の78.4%と多数を占めている。賛成の人は、全体の9.0%で少数である。この意見に反対する人の割合は、登録者(81.1%)と未登録者(75.5%)で大差ない。(表9-1-6)

表9-1-6 「社会奉仕活動は、何となく偽善的で不快を与える」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (6)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	12 1.7% 66.7%	52 7.2% 45.2%	218 30.1% 44.5%	370 51.0% 55.5%	73 10.1% 39.2%	725 100.0% 49.1%
	未登録者	6 0.8% 33.3%	63 8.4% 54.8%	272 36.2% 55.5%	297 39.5% 44.5%	113 15.0% 60.8%	751 100.0% 50.9%
計		18 1.2%	115 7.8%	490 33.2%	667 45.2%	186 12.6%	1476 100.0%

⑦ 「社会奉仕活動は、困っている人に希望を与えるという意義がある」

この意見に賛成する人は、全対象者の81.2%と多数を占めている。反対の人は、10.5%と少数である。この意見に賛成する人の割合は、登録者(83.6%)と未登録者(78.7%)で大差ない。(表9-1-7)

表9-1-7 「社会奉仕活動は、困っている人に希望を与えるという意義がある」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (7)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	271 37.0% 60.0%	341 46.6% 45.1%	52 7.1% 44.1%	18 2.5% 47.4%	50 6.8% 40.0%	732 100.0% 49.2%
	未登録者	181 23.9% 40.0%	415 54.8% 54.9%	66 8.7% 55.9%	20 2.6% 52.6%	75 9.9% 60.0%	757 100.0% 50.8%
計		452 30.4%	756 50.8%	118 7.9%	38 2.6%	125 8.4%	1489 100.0%

⑧ 「自分の生活を犠牲にしても、社会奉仕活動に参加すべきだ」

この意見に反対の人は、全対象者の87.7%と多数を占めている。賛成の人は全体の4%と非常に少ない。この意見に反対する人の割合は、登録者(89.0%)と未登録者(86.4%)で差がない。(表9-1-8)

表9-1-8 「自分の生活を犠牲にしても社会奉仕活動に参加すべきだ」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (8)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	5 0.7% 62.5%	24 3.3% 46.2%	276 37.9% 52.6%	372 51.1% 48.1%	51 7.0% 41.8%	728 100.0% 49.2%
	未登録者	3 0.4% 37.5%	28 3.7% 53.8%	249 33.1% 47.4%	401 53.3% 51.9%	71 9.4% 58.2%	752 100.0% 50.8%
計		8 0.5%	52 3.5%	525 35.5%	773 52.2%	122 8.2%	1480 100.0%

⑨ 「社会奉仕活動は、経済的に余裕のある人だけがやればよい」

この意見に反対の人は、全対象者の79.4%と多数を占めている。賛成者は全体の12.9%と少ない。この意見に反対の人の割合は、未登録者（71.9%）よりも登録者（87.1%）において一層大きい。（表9-1-9）

表9-1-9 「社会奉仕活動は、経済的に余裕のある人だけがやればよい」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (9)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	9 1.2% 27.3%	50 6.9% 31.6%	304 41.7% 50.2%	331 45.4% 58.0%	35 4.8% 30.4%	729 100.0% 49.2%
	未登録者	24 3.2% 72.7%	108 14.3% 68.4%	302 40.1% 49.8%	240 31.8% 42.0%	80 10.6% 69.6%	754 100.0% 50.8%
計		33 2.2%	158 10.7%	606 40.9%	571 38.5%	115 7.8%	1483 100.0%

⑩ 「社会奉仕活動は、何もしないよりも、問題があってもやったほうがよい」

この意見に賛成する人は、全対象者の53.4%と半数余りしかいない。反対者は全体の24.6%といくらかいる。他の意見にくらべて、意見の評価は分かれている。この意見に賛成する人の割合は、未登録者（48.7%）よりも登録者（58.1%）において一層大きい傾向にある。（表9-1-10）

表9-1-10 「社会奉仕活動は、何もしないよりも問題があってもやったほうがよい」という意見に対する態度

		社会奉仕活動についての意見 (10)					計
		まったくそのとおりだ	まあそうだと思う	まあそうだと思わない	全然そうだと思わない	わからない	
調査対象者	登録者	104 14.2% 73.2%	321 43.9% 49.3%	97 13.3% 40.9%	56 7.7% 43.1%	153 20.9% 46.9%	731 100.0% 49.2%
	未登録者	38 5.0% 26.8%	330 43.7% 50.7%	140 18.5% 59.1%	74 9.8% 56.9%	173 22.9% 53.1%	755 100.0% 50.8%
計		142 9.6%	651 43.8%	237 15.9%	130 8.7%	326 21.9%	1486 100.0%

(2) 社会奉仕活動の経験

① 献 血

今までに1回でも献血のしたことのある人は、全体の59.4%であり、半数余りの人が献血経験者である。3回以上献血したことのある人は、全体の30.2%であり、約3人に1人はベテランの献血者である。献血経験者の割合は、未登録者（46.3%）よりも登録者（73.1%）において一層大きい。すなわち登録者のほぼ4人に3人は、今までに献血したことのある人である。しかもその44.5%が多頻度の献血者である。（表9-2-1）

表 9-2-1 献血経験

		社会奉仕活動の経験 (1)			計
		今までに3回以上献血したことがある	1～2回献血したことがある	全く献血したことがない	
調査対象者	登録者	322 44.5% 72.2%	207 28.6% 48.0%	195 26.9% 32.6%	724 100.0% 49.1%
	未登録者	124 16.5% 27.8%	224 29.8% 52.0%	404 53.7% 67.4%	752 100.0% 50.9%
計		446 30.2%	431 29.2%	599 40.6%	1476 100.0%

## ② 募金協力

募金運動に協力して献金したことのある人は、全対象者の95.9%と大多数を占め、ほぼ全員が今までに1回は献金しているようである。しかも、しばしば献金している人が44.3%と半数近くいる。献金経験者の割合、および多頻度献金者の割合は、登録者と未登録者でほとんど相違しない。（表 9-2-2）

表 9-2-2 募金協力経験

		社会奉仕活動の経験 (2)			計
		今までにしばしば応じたことがある	ときどき応じたことがある	全く応じたことがない	
調査対象者	登録者	336 45.7% 50.5%	370 50.3% 47.6%	29 3.9% 46.8%	735 100.0% 48.8%
	未登録者	330 42.9% 49.5%	407 52.9% 52.4%	33 4.3% 53.2%	770 100.0% 51.2%
計		666 44.3%	777 51.6%	62 4.1%	1505 100.0%

## ③ その他の社会奉仕活動

献金・募金以外の社会奉仕活動に参加したことのある人は全体の50.6%である。しかし、しばしば参加している人は全体の11.1%しかない。登録者の場合、参加経験者の方が多く（57.1%）、逆に未登録者の場合、参加したことのない人の方が多い（55.8%）。（表 9-2-3）

表 9-2-3 その他の社会奉仕活動の経験

		社会奉仕活動の経験 (3)			計
		今までにしばしば参加したことがある	ときどき参加したことがある	全く参加したことがない	
調査対象者	登録者	98 13.6% 60.1%	314 43.6% 54.0%	309 42.9% 42.4%	721 100.0% 49.0%
	未登録者	65 8.7% 39.9%	267 35.6% 46.0%	419 55.8% 57.6%	751 100.0% 51.0%
計		163 11.1%	581 39.5%	728 49.5%	1472 100.0%



## 10 腎臓バンクの制度についての意見

腎臓バンクの制度について種々の意見が表明された。腎臓バンク登録者の意見は表10-1に、未登録者のそれは表10-2に示されている。

表10-1 腎臓バンク登録者の腎臓バンクの制度についての意見

意	見	頻度
もっとPRして多くの人々に知ってもらうようにするべきだ。		43
各臓器がばらばらのバンクではなく一本化した臓器バンクを作るべきである。		20
大変良いことだと思う。		4
具体的に提供申し込みをしたくても詳細がわからない場合が多い。		4
死後の臓器移植を義務づけても良いのではないか。(法律で)		8
ドナーカードを紙製のものではなく、プラスチックやアルミなどもっとしっかりしたものにして欲しい。		1
宗教観・国民性の点で無理もないと思うが、早く欧米レベルまで近づいてもらいたい。		2
臓器移植をうける患者に提供者の生いたちや生前の意志などを伝えてはどうか。		2
制度そのものがあまり理解されていないのではないだろうか。		5
登録後も会報等で現状等を知ることができれば関心が持続すると思う、カードが送られたきりだと、カードを持ち歩くのを忘れてたりしがちである。(After Service の欠如)		7
マスコミを通じてキャンペーンをつづけ、真の理解を広く求めるべきだ。		11
臓器配分を公正にすべきだ。		1
腎臓バンク等多数のバンクに入っているが、その調整は十分とられているだろうか。		1
葬式等はどうなっているのだろうか。		1
企業・その他団体での登録制度の導入を考えてはどうか。		2
一人でも多くの人がバンクに登録すれば良いのと思う。		3
高齢者の臓器使用の研究をすすめても良いのではないか。		1
死後の連絡がうまくいかどうか心配である。110番等のようにみんなが知っている番号にするか、医者が連絡する義務をもつかすれば良い。		2
腎臓バンクも、アイバンクのように英語に訳して、もっと親しみのあるネーミングにすべきである。		1
医療関係者等は必ず登録すべきである。		4
新聞等で読むとアイバンク等では、後進国から眼球をもらっているとか、とても恥ずかしいことだと思う。		1
現行制度のままでも良いからもっと普及に努めるべきである。		1
車の免許をとるときに義務づけるべきではないか。		5
車の免許交付・再交付の機会を利用するべきだ。		1
移植例の情報が欲しい。		2
町村定期検診及び青年会、子供会等で専門家の説明会を開くとよい。		1
提供された腎臓が生かされない場合が多いと聞くので残念に思う。医学の発展をのぞむ次第である。		3
警察、消防、その他社会的に健康であると考えられる人々にもっと登録を促進してもらいたい。		1
教育の場で宗教的に命の尊厳さ、社会扶助の義務を説くべきである。		3

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

意	見	頻度
	バンクに入っているのだが、自分の臓器の健康状態の点はどうなるのか、何らかの指示がバンクからあるのか。	3
	この制度は全く当然のものであるからもっと意義の向上をはかるべきであろう。	2
	有効な移植をするためにも死の判定として脳死を採用すべきだ。	1
	街頭ビラ等で必要性を訴えれば、潜在的提供者の開発に役立つであろう。	1
	提供者の意志を尊重した制度にすべきである。（家族の同意は不必要）	10
	政府機関が先頭にたってバンクに加入するように国民的運動を展開すべきだ。	2
	提供することの意義、死体を単に葬ってしまうことのもったいなさ、困っている人の実態を知らせる運動をおこすために、資金あつめをすべきだ。	1
	腎臓を提供しようと思っている人は他の臓器も提供しようと思っている人が多いので、その点を考えてほしい。	3
	成人と同時にバンクに登録する制度を作るべきだ。	1
	生体臓器移植なるものはあまり表面に出すべきではない。	1
	受付機関として郵便局・都市銀行を利用できないか。	1
	死ぬのを待たれているようでなぜか気になる。	1
	今後の問題として、やりとりにお金をからませないでほしい。	1
	政府によるバンクの一括化をすればよいのではないか。	1
	登録後、有料でも良いから適合のための検査を登録者が出るようにすれば良いのではないか。	3
	バンク間の連絡をとって、どれかに登録した人に他のバンクへのアピールをしてほしい。	3
	脳下垂体バンクの地方バンクを増設する必要がある。	1
	中学・高校などの若い世代に対しての啓蒙運動が必要である。	1
	いつでも取り消せることが宣伝されていないようである。	1
	バンクの規模が大きくなることを願う。	2
	PRの種類をもっと増やしてもよいと思う。	1
	市政だよりのように確実に読むものに登録先が書いてあるといいと思う。	2
	脳下垂体バンクのPRをもっとすべきである。	2
	全国規模で厚生省等でわかりやすく説明してほしい。	1
	登録申込者だけでなく、家族・友人の申込用紙も送付してほしい。	1
	以前の献血制度のように、もし登録している人が腎不全、慢性腎炎等により腎移植が必要になった場合に、優先的に移植が受けられるようにすれば良い。	1
	はやく移植実績が増えることを祈る。	1
	55才で終わりとあるが、現在の平均寿命からしてそれをのばすことは出来ないか。	3
	提供者の死亡を知らせるのに今のやり方では駄目だと思う。	1
	死後提供したくても、交通の便が悪く時間的制約をうける人の意志が反映できるようになると良い。	1
	カードの紛失チェックを2～3年に一度でいいからすべきではないか。	1
	腎臓バンク以外のバンクのPRが不足している。（連絡先がわからない）	5
	大都市だけでなく地方都市にもつくと良いと思う。	1
	死後本人が登録していることを周囲の人々が早期に知れるような方法をとれば良いと思う。	1

意	見	頻度
	献血のように手軽に登録でき、自然な形で病人に渡るようにするとよい。	2
	公報や新聞雑誌等で呼びかけるべきだ。	1
	私のように現在及び将来、大阪に住む見込みのない者はどうなるのか。(取り消す気はない)	1
	家族・親族に対する積極的キャンペーンが必要だと思う。	1
	交通事故による死亡で提供者とわからず終わってしまう場合があると思うので、免許証に記号でもよいからそれとわかるようにすればよいと思う。	1
	家族の承諾は必要である。登録者数を増やすばかりではよくない。	1
	登録した人の意志が必ず実行されるようにフォローを考えるべきだ。	1
	脳死の段階で摘出してよいとする人の場合は摘出できるようにならないだろうか。	1
	制度よりも活動面で充実すべきだ。	1
	病気で困っている人の姿や、死体は外見上かわらないということ等知らせるべきだ。	2
	他府県へ移転しても、登録が取り消されぬようにしてほしい。	2
	妻から夫へ腎臓を移植したいと思ってもできないので、生体で腎臓を他の人に提供すれば、優先的に他の人の腎臓をもらえるようなシステムにしてほしい。	1
	死後病院の設備等の都合で、必要でも病理解剖が行えず司法解剖を行う場合がある。しかし臓器移植には時間の制約があり、法医教室の都合で待てない。警察は司法解剖前に、遺体を傷つけられては自分の立場がないだけの理由で摘出できない。これは実際私の子供(9才)が角膜提供を申し出たときの私のやりきれなさでした。ゆえに行政面の改善が必要であろう。	1
	現在の日本では、必要としている人が非常に多いのに、提供者が少なすぎる。	3
	他人の臓器をもらって生きる程の社会かどうかは疑問だが、制度としてはあっても良い。	1
	死後、移植された方の住所・氏名等を家族に知らせてもらえるような制度の確立をのぞむ。	2
	申し込み用紙がもっと手軽な場所にあれば良いと思う。	2
	全国的ネットワークがはやくできればよいと思う。	2
	提供する場合、生前に指名して、その人に優先的に提供できたらよいと思う。	1
	現行の死の判定基準と脳死の判定基準のそれぞれのもつ意味をはっきりと啓蒙するべきだと思う。	1
	大学生に対して広報活動をするとう有効ではないか。	1
	緊急の事故で本人が死亡した場合(とくに外で)どのように知らせたら良いか、家族が忘れていたらどうするのか。	1
	もっと死亡から提供、葬式までの詳しいシステムを知らせてほしい。	1
	提供者カードをペンダントにして肌身離さずもてるようにしてほしい。	1
	本人の死後バンクに連絡しなければならぬのか。町の医者でも登録者がすぐわかるようにして、バンクから連絡できるようにして下さい。	1
	もっとコンピューター・ネットワークを強化すべきだ。	1
	死後提供する代償として提供者の健康診断を厳密にやるべきだ。そのデータは適合の点等メリットがあるはずだ。	1
	腎臓病の苦しさを身近に感じており、移植が一番だと思う。	1
	「バンク」という言葉に少しこわさを感じる。	1
	医者がその意義をわかりやすく説明すべきである。	1
	登録している本人が死んでも家族がバンクに知らせないこともある。その場合どうなるの	1

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

意	見	頻度
か。		
多くの人々に、バンクの仕事内容を広告すると良い。		1
現在の医療において必要だと思う。		1
もしもの時にその地区の119番に電話すれば、どこの病院でももらえるのかわかるでしょうか。		1
日本では二重登録できないと聞いているが、アメリカのように二重登録できるシステムが良いと思う。		1
バンクが各人の善意で成り立っている現実では、やはり各自の権利（取り消すという）を守らなければならない。		1
バンクと登録者間の連絡が薄いのではないか。		1
個人個人への呼びかけは大変なので、諸団体へのアピールをすべきではないか。		1
臓器移植に保険がきくようになると良い。		1
社会的貢献の義務を強調しないように。		1
病気で苦しんでいる家族・親せきの方がまず登録すべきではないか。		1
今までどおりで良い。		1
いくつものバンクに登録したいのだが、できるかどうかわからない。その点をPRしてほしい。		1
死の直前の本人の意志だけでよいと思う。		1
腎臓を提供してもらった人に、それなりの貢献をしてもらいたい。		1
登録していても交通事故などで死亡のおそれが生じたとき、バンクに通報されないということはないのか。		1
腎臓についての資料を時々送って欲しい。		1

表10-2 未登録者の腎臓バンクの制度についての意見

意	見	頻度
後でごたごたのないようにしてほしい。		1
登録において家族の確認をとればより確実になる。		1
臓器移植を推進するためには制度の充実を計ることが必要である。		1
あまりこのような制度には賛成できない。		1
手続きが面倒である。		1
制度の窓口を広げてほしい。		1
もっと安心感を与えてほしい。		1
身体の障害のある人々を助けたいと心から思っている人々からなるバンクの制度だと思うのでよい制度だ。		1
患者の家族が率先して登録すべきだ。		1
手近な場所で登録できればよい。		1
金銭・権力などに左右されるようになってはならない。		2
東北大学で臓器移植死亡者があった。絶対成功するまでは、研究を重ねるべきだ。		1
できるかぎりやるべきである。		1

意	見	頻度
あまり意識していなかったが今後考えていきたい。		1
本人の健康チェックが紙上質問だけでよいのか疑問を抱く。		1
バンク制度の重要性をもっと考えていくべきだ。		1
まわりの者がいるから自分も生活できるという気構えをもってもらうことは思いやりの一つである。		1
提供した臓器が健康体同様働けるのか疑いをもつ。		1
身近に必要なになれば協力しようと思う。		1
政府が公報等を通し真剣に考えさせるべきだ。		2
外国から求めなくてもよいようにすべきだ。		1
マスコミでバンクの現在の状況などもっとわかりやすく解説してほしい。		2
申込みの方法などが知られていない。		1
潜在的な人をほりおこすためにもっとPRすべきだ。		1
日本の宗教感、倫理感をなくすために、情報を徹底的に流すべきだ。		1
もっと積極的にPRすべきだ。		15
身近にないのでピントこない。現実の問題となっても登録するかどうか疑問だ。		1

#### IV. 結 語

臓器機能の障害に苦しんでいる他者に対して、自分の臓器を無償で生前にあるいは死後に提供することは、ひとつの典型的な順社会的行動であると考えられた。順社会的行動の生起過程とそれに影響する要因の究明に努めてきた筆者らは、その研究の一環として、この臓器移植・提供の意識と行動の調査研究を行なった。

この研究の目的は、臓器移植・提供についての人々の認知、態度、および行動意向などを明らかにすること、また、特に腎臓の移植・提供を促進するための「腎臓バンク」についての、同じく、認知、態度、および意向などを明らかにすること、さらには、それらに関連するものとして、腎臓以外の臓器のバンクについての考えや社会奉仕についての意見と行動などを明らかにすることであった。この研究では、それらの実態をより一層明確に把握するために、平均的な水準にあるものとしての一般社会人（腎臓バンク未登録者）と、それと対照的に、ここでの問題により一層積極的な特徴を持つものとしての腎臓バンク登録者とを調査対象者にして、両者の比較が随所で試みられた。それらを通じてこの研究が明らかにした事実を以下に要約する。

まず、臓器移植・提供一般について記す。「臓器移植や臓器提供」という言葉を今までに一度も聞いたり見たりしたことのないものは非常に少なく、ほぼ全員がこの言葉の認知を経験していた。彼らは主としてテレビ・ラジオや新聞・雑誌のようなマスコミュニケーション媒体を通じてこの言葉を認知しており、友人・知人や家族・親戚などのパーソナルコミュニケーション媒体を通じて認知しているものもいるが、その割合は小さかった。単なるこの言葉の認知と認知媒体に関

しては、一般社会人（腎臓バンク未登録者）と腎臓バンク登録者との間に大きな差がなかった。

臓器移植・提供に関連する一層専門的な知識、すなわち、生体臓器移植と死体臓器移植の違い、死体臓器移植における時間的制約の存在、日本と欧米の間の臓器摘出時期の違い、そして臓器移植・提供に関する法律の規定などについての認知の水準が50%強にとどまっているのに比して、他の事柄の認知は80%前後の高い水準にあった。詳細な認知の場合は、2つの調査対象者群間に差が認められ、バンク登録者の認知水準が一般社会人のそれよりも全般に高かった。

臓器移植・提供に関する態度は、生体、死体という臓器移植の種別、臓器摘出時期、そして、臓器摘出に対する家族の同意の必要性の諸点から調べられた。まず移植の種別に関しては、両方に賛成する人が半分近くおり、これに次いで死体臓器移植にのみ賛成するものが3人に1人の割合であった。臓器摘出時期では、日本の方がよいとする人が最も多く、ほぼ3人に1人の割合であった。しかし、欧米の方がよいとする人も5人に1人の割合であった。家族の同意については、本人の意志を尊重すべしとするものが最も多く、半数強の割合を占め、逆に家族の意志を尊重すべしとするものは3人に1人の割合で少なかった。予想通り、一般社会人に較べて腎臓バンク登録者は臓器移植・提供に一層積極的であった。すなわち、生体および死体臓器移植の両方に賛成するものが一般社会人の場合の2倍もいた。また、欧米の臓器摘出時期の方がよいとするものの方がむしろ多かった。さらに、本人の意志を尊重して臓器を摘出すべしとする人が、登録者の場合、一般社会人の場合の2倍余り、すなわち、全体の70%もいた。

次に臓器の提供意向について主要なところを記す。一般社会人の場合、少なくとも一種類の臓器を死後提供してもよいとするものが60%近くいた。その理由で最も多かったのは、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」であり、約半数のものがこの理由を挙げていた。また、「困っている人を助けるのは当然」とか「社会的貢献がしたかった」という理由も多くのもものが挙げていた。40%近くのもは臓器の提供を拒否しているが、その理由では、「遺体を傷つけられたくない」とするものが60%と最も多く、これに次いで「何となく不安」も多く挙げられており、3人に1人はこれを拒否理由のひとつにしていた。

相手による提供意向の違いを見ると、提供者と提供相手との間の関係が親密でなくなるにつれて、提供意向を持つ人の割合は一般に減じる。しかしながら、一般社会人とバンク登録者とで、また、生体臓器移植と死体臓器移植とでこの傾向は相違していた。すなわち、バンク登録者の場合、しかも死体臓器移植の場合、提供相手によって彼らの提供意向はほとんど変らなかった。ところが、生体臓器移植となると、一般社会人の場合と同じように、提供相手との関係が遠くなるにつれて、彼らの提供意向は減じていた。なお、推測した通り、移植の種別、移植・提供の相手にかかわらず、バンク登録者の提供意向は、一般社会人のそれよりも一層強かった。

「腎臓バンク」についての認知と態度について明らかになった事実を記す。「腎臓バンク」という言葉を今までに聞いたり見たりしたことがあるものは、一般社会人では全体の半数余りであり、半数近くのもは今までにこの言葉を一度も認知していなかった。そしてこの言葉の認知

は、主に、テレビ・ラジオや新聞・雑誌といったマスコミュニケーション媒体を通じて行なわれていた。「腎臓バンク」という単なる言葉の認知水準が低いことにも増して、バンクについての詳細な情報の認知水準は非常に低かった。たとえば、バンクが登録者によって成り立っていることを一般社会人の半数余りは知らなかった。登録を自分の意志で取り消せることを知っているものは10人に1人程度であり、登録に年齢制限のあることを知っていたものもほぼ同水準の非常に低いものであった。

「腎臓バンク」については、「苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある」という積極的評価をするものが最も多く、これに次いで、「マスコミ・教育を通じてバンクの重要性・必要性をもっとPRすべき」とか「もっと全国的に増やすべき」という建設的意見も多く示された。「腎臓バンク」への登録について記すと、一般社会人の約30%は登録意向を持っていた。しかし、これより幾分大きい割合で、登録意向のないものがいた。登録意向のあるもののうちの4人に3人は、家族の同意を得てから登録したいと思っていた。したがって、登録に家族の同意が必要だとするものが最も多く、3人に2人の割合でいた。

登録意向者の4人に3人は、登録に不安や恐怖を感じており、その内容は、「臓器移植・提供についての漠然とした不安・恐怖」が最も多く、3人に2人の割合でこれを経験していた。また、「自分の“死”を意識することによる不安・恐怖」や「死後遺体が傷つけられることに対する不安」をほぼ3人に1人が感じていた。

登録の意向を持つ理由として、「臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して」、「困っている人を助けるのは当然のことなので」、そして、「何か社会的な貢献がしたいので」が半数前後のものによって挙げられた。逆に、登録を拒否する理由としては、「遺体を傷つけられたくないので」や「何となく不安だから」が半数近くのものによって挙げられた。

「腎臓バンク」への登録を推奨した人は、既登録者では、半数余りいたが、未登録者の場合、自分自身が未だ登録していないこともあってか、1%にも満たない。なお、推奨相手は、配偶者、親、兄弟・姉妹、子供といった親族が多数を占めていた。また、推奨方法としては、「教育を通して登録の重要性・必要性を認識させる」、「もっと大掛りで長期間のキャンペーンをマスコミを通じて実施する」、「ポスター・チラシなどでもっとPRする」が半数前後の人々によって挙げられた。

「腎臓バンク」への登録者の3人に1人には、周囲に腎臓病あるいは臓器機能障害者がいた。この割合は、未登録者のそのほぼ2倍にあたる。障害者と登録者の間柄では、友人・知人が40%程度で最も多く、これに家族と親戚の人が次いで多かった。

登録に対する他の登録者の影響が暗示された。登録者の約60%では、身近に臓器バンクへの登録者がいたが、未登録者の場合、その割合は5%程度であった。身近にいる登録者との間柄では、家族が60%余りで最も多く、友人・知人がほぼその半分程度いた。

登録者の4人に1人は、他者によって登録を勧誘されているが、未登録者では、その割合が1

％にも満たない。勧誘された人のほぼ全員がその勧誘に影響されて登録しようと思ったと答えている。なお、勧誘者は家族が60％余りで最も多かった。

登録者の80％は身近な人たちと臓器バンクについて話し合った経験を持っていたが、未登録者の場合、その割合は20％弱でしかなかった。この話し合いが自分に影響を与えたとするものは、登録者では40％ほどいたが、未登録者では26％程度にとどまっていた。なお、話し合いの相手は、家族が80％程度で最も多く、友人・知人はその半分程度の割合であった。

腎臓以外の臓器の移植・提供について記す。「腎臓バンク」以外のバンクでは、「アイ（角膜）バンク」の認知水準が高く、「腎臓バンク」のそれよりもむしろ10％程度高かった。しかし、「脳下垂体バンク」の認知水準は20％と非常に低かった。なお、「腎臓バンク」登録者の認知水準は、一貫してその未登録者の認知水準よりもかなり高かった。

各種バンクへの登録意向を比較すると、「腎臓バンク」登録者の30％余りは「アイ（角膜）バンク」に、また、20％弱は「脳下垂体バンク」に既に登録していた。「腎臓バンク」に未だ登録せずに、他のバンクに登録しているものは「アイ（角膜）バンク」の1名のみであった。つぎに登録の意向のある人は、「アイ（角膜）バンク」の場合、「腎臓バンク」登録者の2人に1人、その未登録者の3人に1人であり、「脳下垂体バンク」の場合はむしろ幾分多く、それぞれ3人に2人と5人に2人であった。登録意向の水準はバンクの種類によって大差ないが、「脳下垂体」、「アイ（角膜）」、「腎臓」の各バンクの順になっていた。

「アイ（角膜）バンク」や「脳下垂体バンク」への登録意向、あるいは登録拒否の理由は、それぞれ「腎臓バンク」の場合とよく類似していた。また、バンクに対する意見においても、3種類の臓器バンクはよく似ていた。

臓器移植・提供に関する意識や行動と関連すると考えられる社会奉仕活動についての考えや参加経験では、全般にこの活動に対して積極的な態度が80％前後の人たちによって保持されていた。なお、この社会奉仕活動に対する好意的な態度は、「腎臓バンク」未登録者よりもその登録者において、一層多くの人たちによって保持されていた。

献血、募金協力、その他の社会奉仕活動への参加経験についてみると、一度でも経験のある人は献血のほぼ全員を除き、いずれも50～60％であった。しかし、しばしば参加したことのある人は、献血の30％、献金で40％余り、そして他の奉仕活動ではわずかに10％程度であった。なお、献金の場合を除き、「腎臓バンク」登録者は未登録者よりも一層奉仕の点で活動的であった。

臓器移植・提供についての意識や行動の特徴は、この調査研究によって以上のようにかなり明らかとなった。我々は、この問題との関連の程度を異にする種々の人々を対象に調査を行なっている。たとえば、大学付属病院に勤める医者と看護婦、医学を勉強している学生と看護学生、そして他の学部の大学生を調査し、一般社会人や「腎臓バンク」登録者と異なる臓器移植・提供に



ついで意識や行動を明らかにしようとした。それらの結果は今後順次報告する予定であるが、これらの人々との間の差異を生み出す要因の解明が今後の研究に求められねばならない。

---

#### 付 記

この研究は、大阪腎臓バンクからの多大の援助を受けて行なわれた。筆者らは、そのことをここに記し、感謝の意を表します。

## V. 付 表

### 臓器移植・提供についての意識調査

最近日本においても、臓器機能の障害に苦しんでいる人々のために健康な人が、死後、自分の臓器を提供しようという『臓器移植・提供』が、マスコミなどでも大きく取り上げられ注目され始めました。

私達は、以前からこのような援助行動や助け合い運動などにみられる愛他的な行動を研究してきました。そこで、私達の研究の一環として『臓器移植・提供』の問題を取り上げ、これに対する市民の意識などを社会心理学的に解明するために、調査を行うことにしました。

あなた様は、この調査を特に願う方として、吹田市内の数地点からくじ引きのような統計的方法で選ばせていただきました。御名前は無記名でございますし、回答は全てコンピュータで統計的に処理いたしますので、御迷惑のかかることは絶対にありません。ですから、ありのままの事実と御意見を御記入下さい。

お忙しいところ御面倒かと存じますが、どうかよろしくお願い致します。

#### 御 記 入 の 注 意

1. 御記入は、指名させていただきました方をお願い致します。
2. 御回答は、回答項目が用意されている場合には、当てはまる項目の番号に○印を付けてください。回答項目が用意されていない場合や、「その他」の項目を選択された場合には、具体的にその内容も御記入ください。尚、質問の最後に（一つだけ）と書いてある場合には、○印を最も当てはまる番号に一つだけ付けてください。また、（いくつでも）と書いてある場合には、○印をいくつ付けてもかまいません。
3. 指示に従って全ての質問にもれなく御回答ください。一つでも記入洩れがあると、調査票全体が無効になることがあります。よろしくお願い致します。

この調査に関するお問い合わせは、下記をお願い致します。

関西大学 社会学部 社会心理学 高木研究室

調査責任者 社会学部教授 高木 修

地点： \_\_\_\_\_

☎ 06 (388) 1 1 2 1

番号： \_\_\_\_\_

\*内 線：5 5 6 5\*

まず最初に、臓器移植・提供一般についてお尋ねします。

Q1. あなたは、臓器移植・提供という言葉は今までに聞いたことがありますか。(一つだけ)

1. ある————→S Q1-1.へ
2. ない————→Q2.へ

(あるに○印を付けた人へ)

\* S Q1-1. あなたは、それを何で知りましたか。(いくつでも)

1. 新聞・雑誌
2. テレビ・ラジオ
3. ポスター
4. 公報・市報
5. 自治会報・回覧板
6. ミニコミ誌
7. 家族・親戚から聞いて
8. 友人・知人から聞いて
9. その他( )

Q2. 臓器移植には、生体から臓器を摘出し、他の人に移植する場合(生体臓器移植)と、死体から臓器を摘出し、他の人に移植する場合(死体臓器移植)とがあります。あなたはこの違いを知っていましたか。(一つだけ)

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q3. あなたは生体臓器移植と死体臓器移植のどちらに賛成ですか。(一つだけ)

1. 生体臓器移植・死体臓器移植ともに賛成
2. 生体臓器移植に賛成
3. 死体臓器移植に賛成
4. 生体臓器移植・死体臓器移植ともに反対
5. その他( )
6. わからない

Q4. 死体臓器移植などにおいて、死体から臓器を摘出する際、時間的制約のあることを知っていましたか。(一つだけ)

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q5. 深昏睡、瞳孔拡大、自発呼吸の停止、急激な血圧降下と、それに続く低血圧、脳波の平坦化という5つの条件が6時間持続すれば“脳死の判定”が下されます。欧米では、脳死の状態では臓器の摘出が行われます。日本では脳死の後、心臓が停止した状態で初めて臓器の摘出が行われます。あなたは、この違いを知っていましたか。(一つだけ)

1. 知っていた
2. 知らなかった

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

Q6. Q5のように臓器摘出の段階に日本と欧米で違いがあります。あなたはどちらに賛成ですか。

(一つだけ)

1. 日本
2. 欧米
3. どちらでもよい
4. その他 ( )
5. わからない

Q7. “角膜および腎臓の移植に関する法律”により、死体から眼球、腎臓を摘出することについての必要な事柄（たとえば移植提供の最終的決定には、家族の同意を必要とするなど）が、規定されています。あなたは、そのことを知っていましたか。(一つだけ)

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q8. 死後、臓器を摘出し移植する場合、家族の同意がなければそれを行うことができません。あなたはそのことについて、どのように思いますか。(一つだけ)

1. 本人の意志を尊重し、家族の同意がなくとも臓器移植・提供を行うべきだ
2. 家族の意志を尊重し、家族の同意がある場合にのみ、臓器移植・提供を行うべきだ
3. その他 ( )
4. わからない

臓器移植・提供には、内臓（心臓、腎臓、脳下垂体など）、骨、角膜、皮膚、血液などの移植・提供があります。以下では、これらについてお尋ねします。

Q9. あなたは、どの程度なら死後、自分の臓器を他の人（臓器機能に障害のある人）に提供してもよいと思いますか。(一つだけ)

1. すべての臓器（すなわち献体）
  2. 数種の臓器
  3. 一種の臓器（“腎臓のみ”など）
  4. 血液のみ
  5. すべていや
- S Q9-1. Q10.へ
- S Q9-1. S Q9-2. Q10.へ
- S Q9-3. Q-10.へ

(すべての臓器、数種の臓器、一種の臓器、血液のみに○印を付けた人へ)

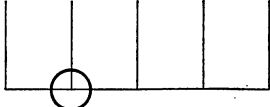

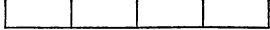
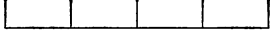







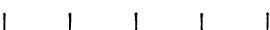


\* S Q9-1. なぜあなたは、他の人（臓器機能に障害のある人）に死後自分の臓器を提供しても良いと思われるのですか。(いくつでも)

1. 何か社会的な貢献がしたいので
2. まわりに臓器機能に障害のある人がいて、その苦しみを知っているのだから
3. 友人・知人に頼まれて



臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

Q10. あなたは、相手がどの程度の関係にある人なら、自分の臓器を提供しても良いと思いますか。死体臓器移植・提供と生体臓器移植・提供のそれぞれの場合について、例を参考にして、当てはまるところに○印をつけてください。

提供する相手	A. 死後自分の臓器を提供する場合（死体臓器移植・提供）	B. 生きている間に自分の臓器を提供する場合（生体臓器移植・提供）
<p>〔例〕 もしあなたが、「ある人」に対して死体臓器移植・提供に少しでも良く、現在生体臓器移植・提供にあまり応じたくないと思えば、右のように○印を付けます。</p> <p>「ある人」</p>	<p>絶対提供に 応じる</p> <p>提供に 応じ</p> <p>どちらとも いえ</p> <p>あまり提供に 応じ</p> <p>絶対提供に 応じ</p> 	<p>絶対提供に 応じ</p> <p>提供に 応じ</p> <p>どちらとも いえ</p> <p>あまり提供に 応じ</p> <p>絶対提供に 応じ</p> 
1. 家族		
2. 親戚		
3. 友人		
4. 知人		
5. 恩師・恩人		
6. 見知らぬ人		







Q19. あなたは登録する際、家族の同意が必要だと思いますか。(一つだけ)

1. 必要だと思う—————→S Q19-1.へ
2. 不必要である—————
3. わからない—————→Q20.へ

(必要だと思うに○印を付けた人へ)

\* S Q19-1. あなたは、なぜ家族の同意が必要だと思うのですか。

理由：

Q20. あなたは、なぜバンクに登録しようと思った(思う)のですか。(いくつでも)

1. 何か社会的な貢献がしたかった(したい)ので
2. 自分のまわりに腎臓機能に障害のある人がいて、その苦しみを知っているから
3. 友人・知人に頼まれて
4. 会社・学校・所属団体などの勧めがあった(ある)ので
5. 友人・知人などが登録した(する)ので
6. 困っている人を助けるのは当然のことなので
7. 何となく良いことだと思って
8. 腎臓移植に興味をもったので
9. 登録することにより、バンクに関係する医者などつながりができると思ったので
10. 職業上何らかの関係があるので
11. 臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
12. 社会に対する義務感から
13. もし実際に提供した場合、何らかのお返しが期待できるかもしれないので
14. その他( )

Q21. あなたは、登録する前に何か不安や恐怖を感じましたか(感じていますか)。(一つだけ)

1. 感じた(感じている)—————→S Q21-1.へ
2. 感じなかった(感じていない)—————→Q23.へ

(感じた(感じている)に○印を付けた人へ)

\* S Q21-1. 具体的にその不安や恐怖は、どのようなものでしたか(どのようなものですか)。

(いくつでも)

1. 臓器移植・提供に対する漠然とした不安・恐怖
2. 自分の“死”を意識することによる不安・恐怖
3. 死後、遺体が傷つけられることに対する不安
4. 家族の反対に対する不安
5. 生きているうちに、臓器の提供を求められるのではないかという不安
6. その他( )



臓器移植・提供に関する他者からの働きかけについてお尋ねします。

Q25. あなた自身も含めて家族・親戚・友人・知人・近所の人などで、透析の必要な腎臓病の人や、臓器機能に障害のある人がいますか。(一つだけ)

1. いる————→S Q25-1.へ

2. いない————→Q26.へ

(いるに○印を付けた人へ)

\* S Q25-1. それは、誰ですか。(いくつでも)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1. 自分自身     | 6. 職場の人   |
| 2. 家族(間柄: ) | 7. 学校の人   |
| 3. 親戚       | 8. 所属団体の人 |
| 4. 友人・知人    | 9. その他( ) |
| 5. 近所の人     |           |

Q26. 家族・親戚・友人・知人・近所の人などで、腎臓バンク、アイ(角膜)バンク、脳下垂体バンクなどに登録している人を知っていますか。(一つだけ)

1. 知っている————→S Q26-1.へ

2. 知らない————→Q27.へ

(知っているに○印を付けた人へ)

\* S Q26-1. それは誰ですか。(いくつでも)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1. 家族(間柄: ) | 5. 職場の人   |
| 2. 親戚       | 6. 学校の人   |
| 3. 友人・知人    | 7. 所属団体の人 |
| 4. 近所の人     | 8. その他( ) |

Q27. あなたは、家族・親戚・友人・知人・近所の人などからバンクに登録するように勧められましたか。(一つだけ)

1. 勧められた————→S Q27-1. S Q27-2.へ

2. 勧められなかった————→Q28.へ

(勧められたに○印を付けた人へ)

\* S Q27-1. それは、誰からですか。(いくつでも)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1. 家族(間柄: ) | 5. 職場の人   |
| 2. 親戚       | 6. 学校の人   |
| 3. 友人・知人    | 7. 所属団体の人 |
| 4. 近所の人     | 8. その他( ) |

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

\* S Q 27-2. あなたは、勧められてバンクに登録しようと思いましたか。（一つだけ）

1. 思った
2. 思わなかった
3. どちらともいえない

Q28. あなたは、家族・親戚・友人・知人・近所の人などと、腎臓バンク，アイ（角膜）バンク，脳下垂体バンクなどについて話し合ったことがありますか。（一つだけ）

1. ある—————→S Q28-1. S Q28-2.へ
2. ない—————→Q29.へ

（あるに○印を付けた人へ）

\* S Q 28-1. それは誰とですか（いくつでも）

1. 家族（間柄：            ）
2. 親戚
3. 友人・知人
4. 近所の人
5. 職場の人
6. 学校の人
7. 所属団体の人
8. その他（                    ）

\* S Q 28-2. その話は、あなたがバンクについて持っている考えに影響しましたか。（一つだけ）

1. 影響した
2. 影響しなかった
3. どちらともいえない

他の臓器移植・提供に関する認識・登録意志決定過程についてお尋ねします。

Q29. あなたは、次に上げるバンクを知っていますか。知っているものすべてに、○印を付けてください。また、その他にあなたが知っているバンクがあれば、具体的にその名称を記入してください。

1. アイ（角膜）バンク—————→Q30-A. Q31-A.へ
2. 脳下垂体バンク—————→Q30-B. Q31-B.へ
3. その他にあなたが知っているバンク—————→Q30-C. Q31-C.へ

名称：

4. 知らない—————→Q32.へ

\*\*\*  
\*\*\* アイ（角膜）バンクを知っている人へ \*\*\*  
\*\*\*

\* A : アイ（角膜）バンク \*

Q30-A. あなたは、アイ（角膜）バンクに登録しようと思いますか。（一つだけ）

1. もうすでに登録している
  2. 登録しようと思う
  3. できれば登録しようと思う
  4. 登録したくない
  5. 登録できない
  6. わからない
- S Q30-A-1. Q31-A.へ
- S Q30-A-2 . Q31-A.へ
- Q31-A.へ

（もうすでに登録している，登録しようと思う，できれば登録しようと思うに○印を付けた人へ）

\* S Q30-A-1. あなたは、なぜアイ（角膜）バンクに登録しようと思った（思う）のですか。

（いくつでも）

1. 何か社会的な貢献がしたかった（したい）ので
2. 自分のまわりに角膜機能に障害をもつ人がいて、その苦しみを知っているから
3. 友人・知人に頼まれて
4. 会社・学校・所属団体などの勧めがあった（ある）ので
5. 友人・知人などが登録した（する）ので
6. 困っている人を助けるのは当然のことなので
7. 何となく良いことだと思って
6. 角膜移植に興味をもったので
9. 登録することにより、バンクに関係する医者などつながりができると思っ  
て
10. 職業上何らかの関係があるので
11. 臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
12. 社会に対する義務感から
13. もし実際に提供した場合、何らかのお返しが期待できるかもしれないので
14. その他

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

（登録したくない、登録できないに○印を付けた人へ）

\* S Q30-A-2. あなたは、なぜ登録したくない（登録できない）のですか。（いくつでも）

1. 遺体を傷つけられたくないので
2. 何となく不安だから
3. いたそうなので
4. 健康上の点から
5. 宗教上の点から
6. 他の人が登録するので
7. 家族の反対があるので
8. 手続きが面倒だから
9. 自分の死を待たれているようなので
10. 将来自分の家族が移植を必要とするかもしれないので
11. 自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うので
12. 葬式に手間どりそうだから
13. 縁起が悪いので
14. 興味がないので
15. その他

Q31-A. あなたは、アイ（角膜）バンクをどのように思いますか。（いくつでも）

1. バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある
2. バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある
3. バンクをもっと全国的に増やすべきだ
4. マスコミ・教育を通して、バンクの必要性・重要性をもっとPRすべきだ
5. バンクは、国家レベルで行うべきだ
6. バンクは、病院レベルで行うべきだ
7. バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない
8. 患者の家族が率先して登録すべきだ
9. バンクには、興味がない
10. その他

\*\* 脳下垂体バンクを知っている人は、次のページにもお答えください。 \*\*

\*\*\*  
\*\*\* 脳下垂体バンクを知っている人へ \*\*\*  
\*\*\*

\* B : 脳下垂体バンク \*

Q30-B. あなたは、脳下垂体バンクに登録しようと思いますか。(一つだけ)

1. もうすでに登録している \_\_\_\_\_
  2. 登録しようと思う \_\_\_\_\_
  3. できれば登録しようと思う \_\_\_\_\_
  4. 登録したくない \_\_\_\_\_
  5. 登録できない \_\_\_\_\_
  6. わからない \_\_\_\_\_
- S Q30-B-1. Q31-B.へ
- S Q30-B-2. Q31-B.へ
- Q31-B.へ

(もうすでに登録している, 登録しようと思う, できれば登録しようと思うに○印を付けた人へ)

\* S Q30-B-1. あなたは、なぜ脳下垂体バンクに登録しようと思った(思う)のですか。

(いくつでも)

1. 何か社会的な貢献がしたかった(したい)ので
2. 自分のまわりに脳下垂体機能に障害をもつ人がいて、その苦しみを知っているから
3. 友人・知人に頼まれて
4. 会社・学校・所属団体などの勧めがあった(ある)ので
5. 友人・知人などが登録した(する)ので
6. 困っている人を助けるのは当然のことなので
7. 何となく良いことだと思って
8. 脳下垂体移植に興味をもったので
9. 登録することにより、バンクに関係する医者などつながりができると思っ  
て
10. 職業上何らかの関係があるので
11. 臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
12. 社会に対する義務感から
13. もし実際に提供した場合、何らかのお返しが期待できるかもしれないので
14. その他

（登録したくない、登録できないに○印を付けた人へ）

\* S Q30-B-2. あなたは、なぜ登録したくない（登録できない）のですか。（いくつでも）

1. 遺体を傷つけられたくないので
2. 何となく不安だから
3. いたそうなので
4. 健康上の点から
5. 宗教上の点から
6. 他の人が登録するので
7. 家族の反対があるので
8. 手続が面倒だから
9. 自分の死を待たれているようなので
10. 将来自分の家族が移植を必要とするかもしれないので
11. 自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うので
12. 葬式に手間どりそうだから
13. 縁起が悪いので
14. 興味がないので
15. その他

Q31-B. あなたは、脳下垂体バンクをどのように思いますか。（いくつでも）

1. バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある
2. バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある
3. バンクをもっと全国的に増やすべきだ
4. マスコミ・教育を通して、バンクの必要性・重要性をもっとPRすべきだ
5. バンクは、国家レベルで行うべきだ
6. バンクは、病院レベルで行うべきだ
7. バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない
8. 患者の家族が率先して登録すべきだ
9. バンクには、興味がない
10. その他

\*\* アイバンク、脳下垂体バンク以外のバンクを知っている人は、

次のページにもお答えください。\*\*



\*\*\* アイ（角膜）バンク，脳下垂体バンク以外の \*\*\*  
\*\*\* バンクを知っている人へ \*\*\*  
\*\*\*

\* C：その他のバンク \*

Q30-C. あなたは，その他にあなたが知っているバンクに登録しようと思いませんか。（一つだけ）

- |                 |         |                      |
|-----------------|---------|----------------------|
| 1. もうすでに登録している  | └──┬──┘ |                      |
| 2. 登録しようと思う     | └──┬──┘ | → S Q30-C-1. Q31-C.へ |
| 3. できれば登録しようと思う | └──┬──┘ |                      |
| 4. 登録したくない      | └──┬──┘ |                      |
| 5. 登録できない       | └──┬──┘ | → S Q30-C-2. Q31-C.へ |
| 6. わからない        | └──┬──┘ | → Q31-C.へ            |

（もうすでに登録している，登録しようと思う，できれば登録しようと思うに○印を付けた人へ）

\* S Q30-C-1. あなたは，なぜそのバンクに登録しようと思った（思う）のですか。

（いくつでも）

1. 何か社会的な貢献がしたかった（したい）ので
2. 自分のまわりに臓器機能に障害をもつ人がいて，その苦しみを知っているから
3. 友人・知人に頼まれて
4. 会社・学校・所属団体などの勧めがあった（ある）ので
5. 友人・知人などが登録した（する）ので
6. 困っている人を助けるのは当然のことなので
7. 何となく良いことだと思って
8. 臓器移植に興味をもったので
9. 登録することにより，バンクに関係する医者などつながりができると思っ  
て
10. 職業上何らかの関係があるので
11. 臓器移植・提供の重要性・必要性を認識して
12. 社会に対する義務感から
13. もし実際に提供した場合，何らかのお返しが期待できるかもしれないので
14. その他

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

（登録したくない、登録できないに○印を付けた人へ）

\* S Q30-C-2. あなたは、なぜ登録したくない（登録できない）のですか。（いくつでも）

1. 遺体を傷つけられたくないので
2. 何となく不安だから
3. いたそうなので
4. 健康上の点から
5. 宗教上の点から
6. 他の人が登録するので
7. 家族の反対があるので
8. 手続が面倒だから
9. 自分の死を待たれているようなので
10. 将来自分の家族が臓器移植を必要とするかもしれないので
11. 自分の臓器を他の人に提供する必要はないと思うので
12. 葬式に手間どりそうだから
13. 縁起が悪いので
14. 興味がないので
15. その他

--

Q31-C. あなたは、そのバンクをどのように思いますか。（いくつでも）

1. バンクは、苦しんでいる人を救済するという意味で意義がある
2. バンクは、社会福祉を促進することに役立つので意義がある
3. バンクをもっと全国的に増やすべきだ
4. マスコミ・教育を通して、バンクの必要性・重要性をもっとPRすべきだ
5. バンクは、国家レベルで行うべきだ
6. バンクは、病院レベルで行うべきだ
7. バンクに登録しても最終的に家族の同意がなければ移植・提供できないので、バンクは別に必要ない
8. 患者の家族が率先して登録すべきだ
9. バンクには、興味がない
10. その他

--

社会奉仕一般についてお尋ねします。

Q32. あなたは、社会奉仕活動についてどのような御意見をお持ちですか。1～10の意見項目についてA～Eの該当するところに一つずつ○印を付けてください。

	A.	B.	C.	D.	E.
	のま とおた くりく だそ	と 思 あ ま あ そ う だ	と 思 あ ま あ そ う だ い	と 思 あ ま あ そ う だ い	わ か ら な い
1. 社会奉仕活動に参加することは、人生をより豊かにする。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2. 社会奉仕活動は、暇な人だけがやれば良い	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3. 社会奉仕活動は、地域を良くすることだから、非常に意義がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4. 社会奉仕活動は、公共的な活動だから個人でやる必要はない	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5. 社会奉仕活動は、個人個人が参加してこそ意義がある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6. 社会奉仕活動は、何となく偽善的で不快を与える	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7. 社会奉仕活動は、困っている人々に希望を与えるという意義がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
8. 自分の生活を犠牲にしても社会奉仕活動に参加すべきだ	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
9. 社会奉仕活動は、経済的に余裕のある人だけがやれば良い	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
10. 社会奉仕活動は何もしないよりも問題があってもやったほうが良い	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

Q33. あなたは、これまでに寄付などの社会的行為に参加したことがありますか。各項目の該当するところに一つずつ○印を付けてください。

1. 献血

1. 今までに3回以上献血したことがある
2. 1～2回献血したことがある
3. 全く献血したことがない

2. 募金

1. 今までにしばしば応じたことがある
2. ときどき応じたことがある
3. 全く応じたことがない

3. その他の社会奉仕活動

1. 今までにしばしば参加したことがある
2. ときどき参加したことがある
3. 全く参加したことがない

---

この『臓器移植・提供』の意識調査について御意見・御感想があれば、御自由にお書きください。



臓器移植・提供に対する態度と行動（高木・松本・箱井）

F6. あなたが現在一緒に住んでおられるご家族は、あなたを含めて全部で何人ですか。（一つだけ）

- |       |         |
|-------|---------|
| 1. 1人 | 5. 5人   |
| 2. 2人 | 6. 6人   |
| 3. 3人 | 7. 7人   |
| 4. 4人 | 8. 8人以上 |

F7. あなたは、何教を信仰していますか。

--

F8. あなたは、過去に長期間に渡る病気や怪我で苦しんだ経験がありますか。（一つだけ）

1. ある
2. ない

F9. あなたの現在の健康状態は、どうですか。（一つだけ）

1. 良い
2. 普通
3. 悪い

F10. あなたは、自分自身の健康管理にどの程度気をつけていますか。（一つだけ）

1. 気をつけている
2. どちらともいえない
3. 気をつけていない

御多忙のところ、御協力いただきまして誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。恐れ入りますが、もう一度御記入もれがないかどうか最初から見直して下さい。よろしく願い致します。
---